

教育の質的転換を目指したICT活用

大学事例紹介については、平成27・28年度本協会で発表された下記資料の一部を抜粋して紹介しています。

- * 「知識の定着・確認を行う反転授業とアクティブ・ラーニング」
山梨大学 大学教育センター副センター長 森澤 正之氏
- * 「学修マネジメント・システムを用いた事前・事後学修」
東海大学 教育開発研究センター次長 及川 義道氏
- * 「ICTを活用した第人数授業における双方向型アクティブ・ラーニング」
国立大学法人小樽商科大学 学長特別補佐 大津 晶氏
- * 「ICTを活用したアクティブ・ラーニングの取り組みと課題」
医学教育全国共同利用拠点 岐阜医学教育開発研究センター
丹羽 雅之氏
- * 「シラバスによる教学マネジメントとIRによる修学指導の取り組み」
金沢工業大学 常任理事情報処理サービスセンター所長
河合 儀昌氏
- * 「大学の価値の向上を目指したIRの試みとICTシステムの構築」
京都光華女子大学・短期大学部副学長 EM・IR部長 水野 豊氏
EM・IR部員 橋本 智也氏

公益社団法人 私立大学情報教育協会
事務局 長 井 端 正 臣

大学教育における人材育成の視点

- 変化が激しい社会では、自ら考え・答えのない課題に取り組む 意欲と能力を持ち 国・社会、地球規模で自分の考えを発信できる人材が不可欠
- 自分の目標を自分で見出して実践する **主体性**
- 言語・文化・民族性など異なる価値観や世界観を受けとめる **多様性**
- 多様な背景をもつ人と課題を共有し、新たな価値創造に関与できる **協働性**
- 生涯に亘り主体的に学び続け、行動できる人材育成を実現するため
大学教育の質的転換が不可欠
- これまでの知識伝達型の教育から、学生が主体的に問題を発見し、解を見出す 能動的な学修へ転換
- 「教える」という一方向的な授業ではなく、教員と学生、学生同士による議論・対話などや実践経験を通じて、知識の定着・活用や知識の創造を目指したアクティブ・ラーニングに転換していくことが社会から要請されている
- 教室外での事前・事後学修の仕組みが前提となる

教育の質的転換を図るには

大学は、生涯学び続け、主体的に考える力を持ち、未来を切り拓いていく人材の育成を、自主的・自律的に改革・改善していく責務を負っている。

- ① 改革の実現には、大学教育の「入り口」(入学者選抜)から、「出口」(卒業認定・学位授与)までの教育活動の一貫性・整合性に努め、質を自ら保証することが要請されている。
- ② 内部質保証の基本方針を定めたものが、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー・ポリシー)、入学者の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシー。
- ③ ディプロマ・ポリシーでは、「何ができるようになるか」に力点がおかれ、学生が身につけるべき資質・能力の目標を明確化する。
カリキュラムポリシー・ポリシーでは、どのような方法で資質・能力を身に付けられるのか、アクティブ・ラーニングの充実、学修成果の可視化、PDCAサイクルのカリキュラム・マネジメントを確立することが課題。
アドミッション・ポリシーでは、多様な学生を評価できる
- ④ ポリシーそれぞれを関係付ける中で目標を具体化し、質保証を教育活動で確立することが課題。各ポリシーの成果を測定し、共通の観点・尺度(アセスメント)で評価した結果を改善につなげる改革サイクルを確立することが重要となる。

質的転換への主な取り組み

① 教育方針の明確化、教育課程の体系化

- ・ 学位授与方針(学士力)の明示と授業科目との関連性をシラバスで教員相互点検カリキュラム・ポリシーを可視化し、共有するためのカリキュラム・マップ、履修系統図の活用、ナンバリング活用によるカリキュラムの体系性や国際通用性の担保
- ・ 教員中心の授業科目編成から、学位プログラム中心の授業科目編成への転換

② 授業設計・授業マネジメントの改善

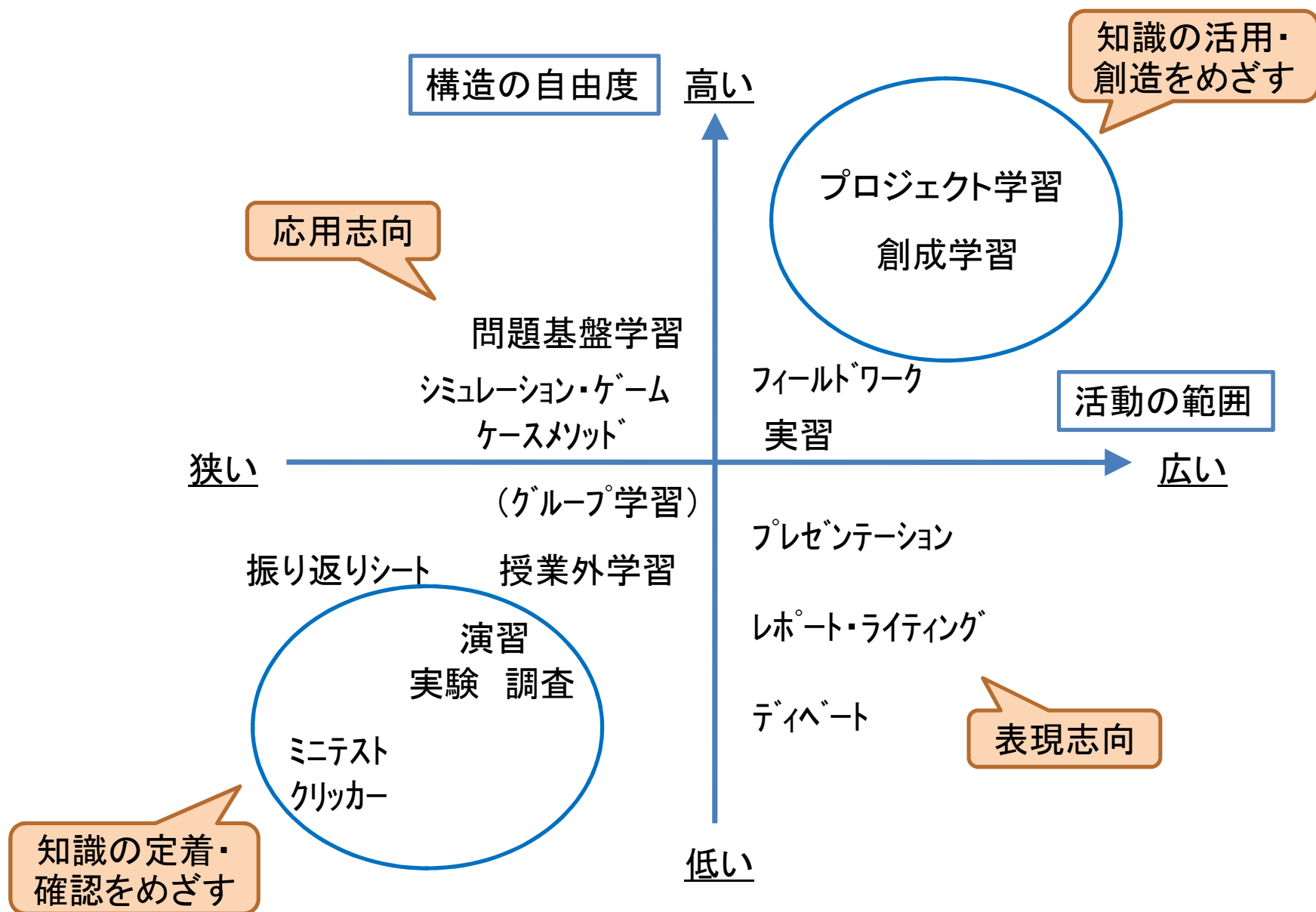
- ・ 知識伝達型授業から能動的授業への転換(アクティブ・ラーニングの普及・充実)
主体性を引き出す初年次教育、知識の定着を目指した反転授業、知識の活用・創造を目指した課題探求・問題解決型PBL授業、双方向型、体験型授業の活用
- ・ 学生目線での学修支援制度の確立(院生・上級生によるファシリテータの導入)

③ 学修成果の把握・評価

- ・ 学修ポートフォリオ、授業評価アンケート、学修到達度調査による学修成果の可視化・達成度評価(学内・学外試験結果、コンピテンシ評価のレーダチャート)
- ・ 教員間による成績評価基準の合意形成(ルーブリックの活用)

④ 全教員を対象とした教育力向上と教学マネジメント職員のSD充実

⑤ アドミッション・ポリシーの具現化、多角的選抜方法の工夫



機関誌「大学教育と情報」2014年度No.1 長崎大学 山地弘起氏 より

図1 アクティブ・ラーニングの多様な形態

授業デザインのイメージ例

事前・事後学修 課題本の読解(話し合い学習法)、データ収集と分析
講義内容をビデオ教材で配信し、知識を伝達(反転授業)
教材を学内LANに掲載し、対面やeラーニングで知識修得

知識の確認と定着

教室授業で学生同士による教え合い・学び合い(協働又は協調学修)
クリッカー等携帯端末で理解度を把握(双方向型授業)
* ジグソーは知識定着に効果的

知識の活用

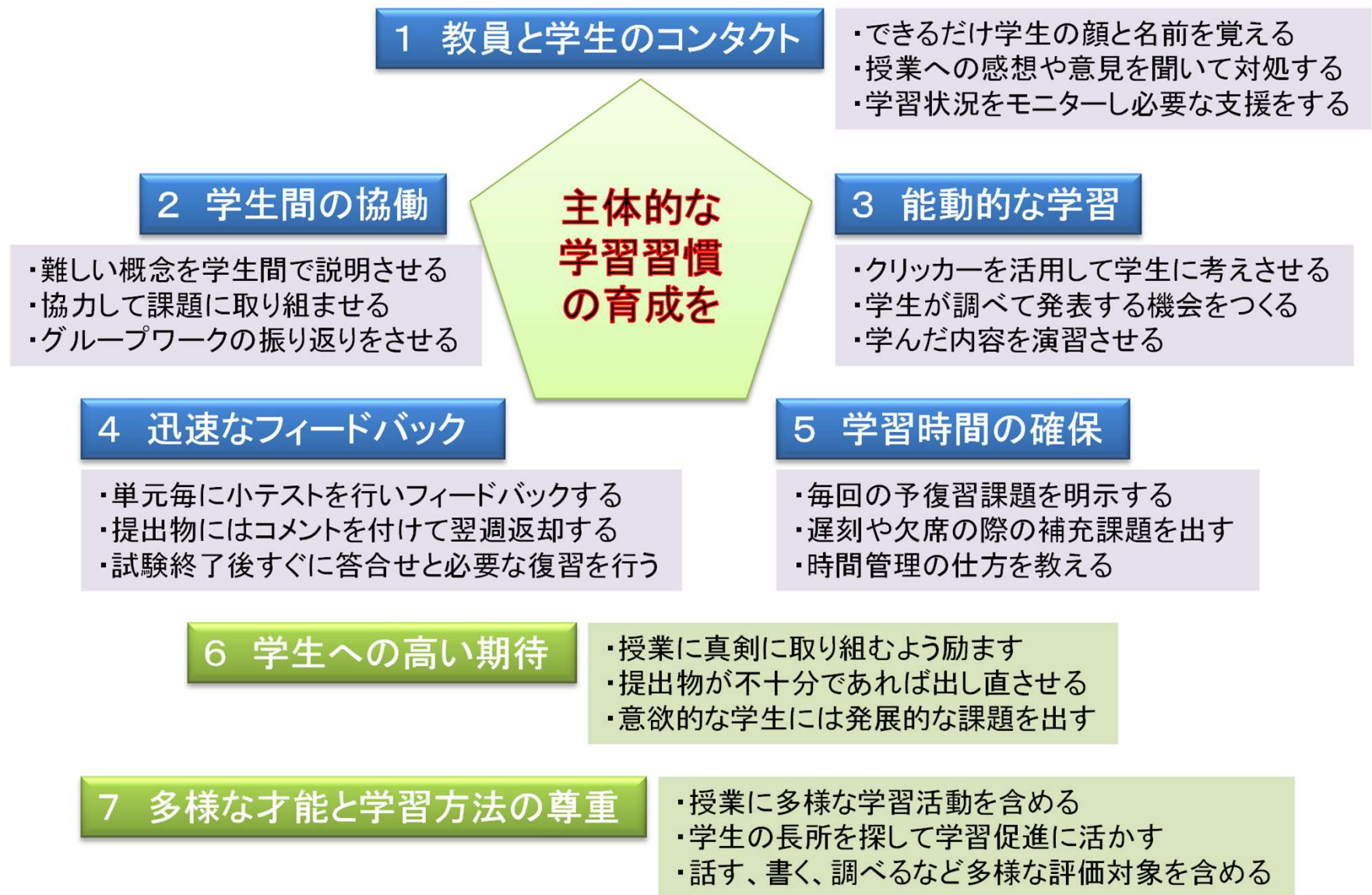
課題を提示し、獲得した知識を用いてチームで考察
課題と知識の関連付け、仮想のケースを作成して問題発見、課題の探求

知識の創造

検討結果をチーム間で発表・意見交換を行い、振り返り、修正
修正結果について異分野から多様な意見を求め、見直しを繰り返す
多様な意見を組み合わせて新たな発想・構想を創り出す

アクティブ・ラーニングで配慮すべき点

- 「教える」から「学ぶ」授業とするため、「問いかけ、気づかせる」など教員の役割・意識を変える、(学生と学びを伴走する半学半教)
- 自分の目標を自分で見出し実践する主体性を引き出す授業を初年次の早い段階から始める
- 予習させるので教え込まない、答えを与えるのではなく、主体的に学修行動できるよう助言に徹する。上級学年生の支援を導入、学修の進め方等を学生目線で助言
- 異なる背景の中で多様性のあるチーム作り、チームワークを通じ協働性を身に付けさせる
- 事前・事後学修の過密化による学生負担を配慮し、授業科目間の調整・統合の検討が必要
- チーム学修を客観的に評価する方法・基準の開発が課題
- 能動学修を設計する授業デザイン力とICT活用力のFD参加を義務付ける



機関誌「大学教育と情報」2014年度No.1 長崎大学 山地弘起氏 より

図2 「7つの原則」とそれぞれの工夫例

アクティブ・ラーニングにおけるICT活用の一例

1. 知識の確認・定着

- ① 事前学修・・・教材・資料を学修管理システムに掲載し、eラーニングで知識修得
講義内容をビデオ配信し、反転授業で事前に知識伝達
- ② 教室授業・・・学修の理解度をクリッカー・携帯端末等で把握し、教員と学生、学生同士の
双方向で対面やネットで知識の定着を確認
社会からネットで最新の知見や現場・体験情報を紹介し、学びの動機付け
- ③ 事後学修・・・教室授業の課題をサイトでチームで議論し、チーム間で共有
サイト上で院生・上級学年生による学修の進め方等助言支援
学修ポートフォリオで学修行動を観察し、メールでフィードバック
ラーニング・コモンズなどでチームの発表を収録し、振り返り修正

2. 知識の活用・創造

- ① 問題発見・課題探求型授業(PBL型授業)
獲得した知識を用いて問題解決をチームで検討させるため、サイトを設定し、問題を整理・発見し、原因分析、課題設定、解決案の意見交換を行う。学修成果をサイトに掲載・発表し、チーム間で振り返りを行うとともに、学外有識者からネットで学修成果の通用性評価を受ける。
- ② 分野横断発想型授業(フォーラム型授業)
多面的な観点から問題解決を考察するため、ネット上で異分野の有識者による議論を収録し、それを教材にして教室内又はネット上で異分野の学生間で議論を行い、考察結果について意見を求め、知識の統合を行い、既成概念にとらわれない新たな発想や価値の創出を目指す。

反転授業による知識の定着

- ① 授業に必要な知識をネット配信し、事前学修させた上で、教室で分からない箇所の質問に答えたり、学生同士で教え合い・学び合いする中で知識の定着につなげる
- ② 予習しなければ授業は理解できないため、コンテンツ動画教材（スライドキャストシステム）で授業外の学修を促進できる
- ③ 教材は10分～15分単位で作成、編集作業の手間を省くために紙芝居型の簡易な教材で、分りにくい部分に詳しい解説を添付
JMOOC利用も可
- ④ 最も重要なことは対面授業の設計と運営
(何を反転して何を対面で行うのか、明確な目的が大切)
- ⑤ 多くの科目で低得点者が減少し、高得点者が大幅に増加
- ⑥ 学修時間の増加、学生の授業参加の増加、教員と学生・学生同士による相互作用が活性化

山梨大学の取組のご紹介(5分)

<http://youtu.be/HrnHTrPPNRA>



早稲田大学の取組のご紹介

<https://www.youtube.com/watch?v=FiGDcgQnXfs>



大鹿 智基 教授

1976年生まれ 早稲田大学 商学学術院教授

知識の定着・確認を行う反転授業と アクティブ・ラーニング

森澤 正之

山梨大学

大学教育センター 副センター長

山梨大学 大学院 総合研究部工学域 教授
(工学部 情報メカトロニクス工学科担当)

反転授業を組み合わせたアクティブラーニング 講義形式

知識の獲得と定着
を主体とする授業



求められること

知識伝達量を減らさずに

- 科目を問わない
- 毎回
- 授業時間の半分以上

アクティブラーニング

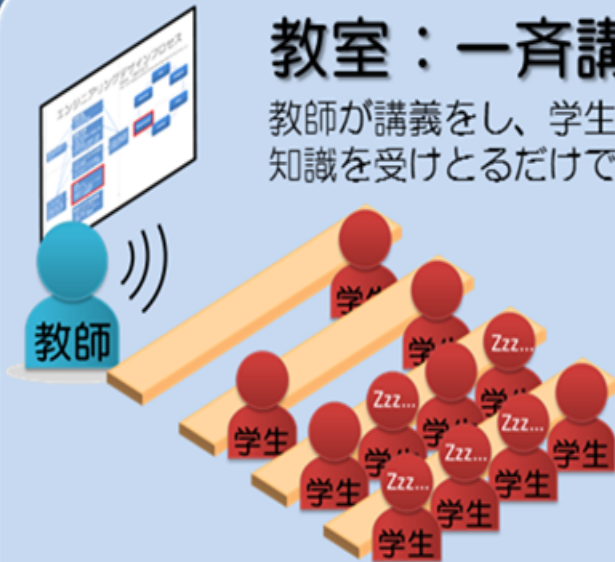


スライドキャストシステムを用いた反転授業を
組み合わせたアクティブラーニング(FC+AL)

これまでの授業 / フリップ (反転授業)

教室：一斉講義

教師が講義をし、学生は受動的に知識を受けとるだけで疑問が残る



自宅：演習など

単位には自宅での予復習を含むが十分行われているとは言い難い



自宅等：動画で受講

学生は事前に知識を受けとり、対面授業に向けて疑問を整理



教室：演習・議論

質疑、演習、協調学習等、学生主体の活発な学習 (アクティブ・ラーニング) により理解を深める



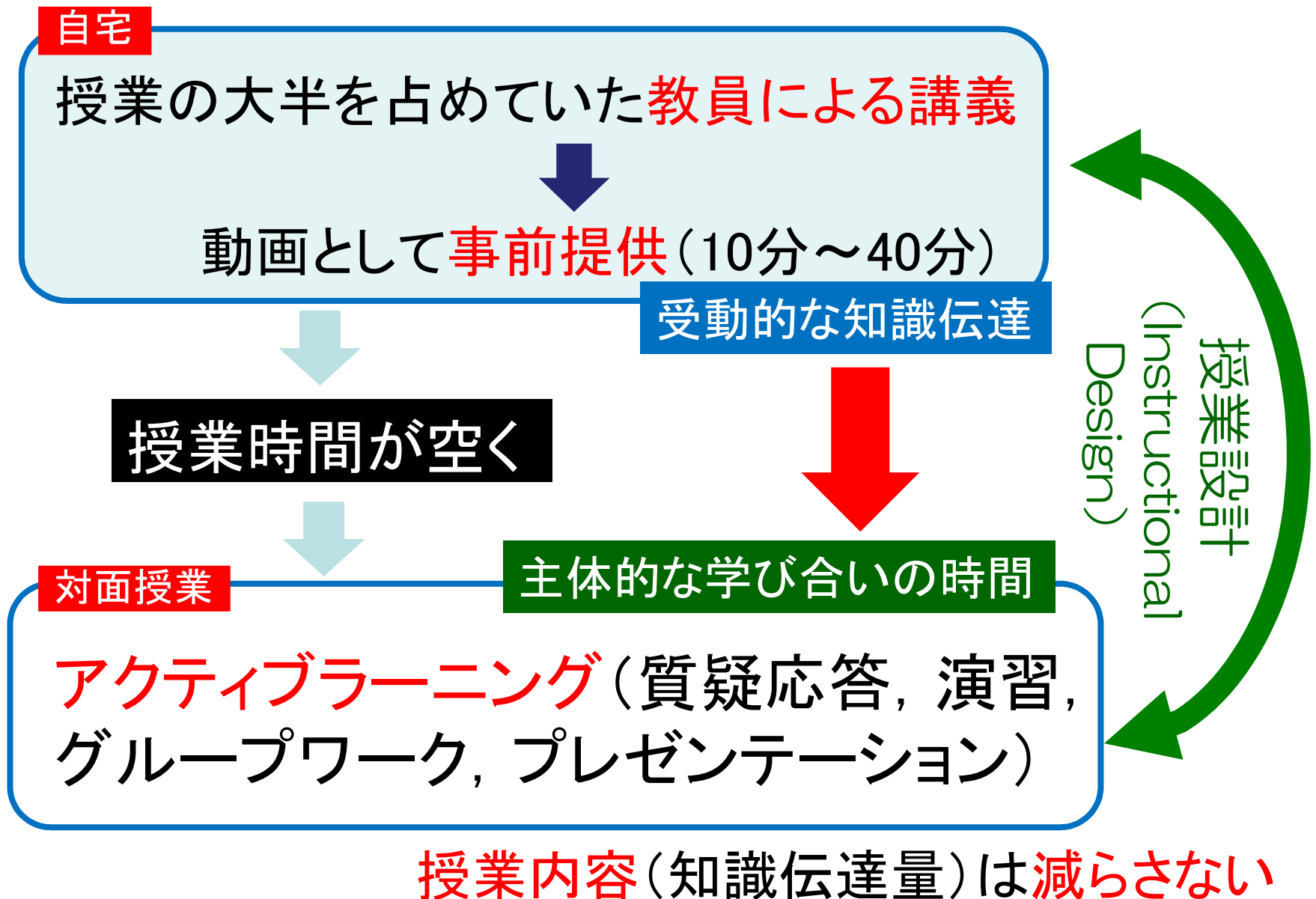
反転

スライド(スクリーン)キャストシステム

- 一般のPCにマイクを接続して, PCの画面と音声を同時記録するシステム
- マウスポインタの位置も記録
- ネットワークを使用して配信



反転授業を組み合わせたアクティブラーニング



工学部での実施例 その1

事前学習

授業の3日前に10～15分の事前学習動画を2～3本を提供
学生には事前のノート作成を指示する。(ルーブリックを提示)
対面授業中に動画の内容の講義は行わない

対面授業

【授業前】4人グループでホワイトボード(WB)を用意して着席
ルーブリックの評価表を配布。ノートのピアレビュー
ルーブリックの評価表とノートのコピーを回収
学習目標と達成目標を提示

事前学習内容を解説するような課題をWBを使ってグループ討論
巡回し、必要ならば全体発表、教員による解説
応用問題、演習問題をWBを使ってグループで討論
巡回し、必要ならば全体発表、教員による解説

繰り返す

ループリックの例

学籍番号				合計
	非常に優れている	優れている	改善を要する	行っていない
定電流源回路	【3点】 ●定電流回路の図が書いてあり、数式と数式以外に200文字以上(ノートに普通の大きさの文字で10行程度)の説明文がある。	【2点】 ●定電流回路の図が書いてあり、数式を伴った説明文がある。	【1点】 ●定電流回路の図が書いてあり、簡単な説明がある。	【0点】 ●定電流回路の説明がわずかにある。
差動増幅器	【6点】 ●差動増幅器の回路図、差動利得、同相利得、CMRRについて、数式を伴い詳細に説明されている。	【4点】 ●差動増幅器の回路図が書いてあり、差動利得、同相利得の導出が説明されている。	【1点】 ●差動増幅器の回路図が書いてあり、簡単な説明がある。	【0点】 ●差動増幅器の説明がわずかにある。
ダーリントン接続	【3点】 ●ダーリントン接続の回路図が書いてあり、数式と数式以外に100文字以上(ノートに普通の大きさの文字で5行程度)の説明文がある。	【2点】 ●ダーリントン接続の回路図が書いてあり、数式を伴った説明文がある。	【1点】 ●ダーリントン接続の回路図が書いてあり、簡単な説明がある。	【0点】 ●ダーリントン接続の説明がわずかにある。
全般的に	【3点】 ●全体的にわかりやすくまとめられている。 ●3ページ以上ある。	【2点】 ●全体的にわかりやすくまとめられている。 ●2ページ以上ある	【1点】 ●1ページ以上ある	【0点】 ●半ページ以下である。

工学部での実施例 その2

事前学習

授業の4日前に15～30分の事前学習動画(時に複数)を提供

事前のノート作成を指示し, 視聴状況をノートでチェック

対面授業中に動画の内容の再説明はしない(質問対応のみ)

対面授業中の活動

時間配分

教室入り口で振り返りや内容理解を助けるワークシートを配布 & 出欠確認 5分

事前学習動画の内容の振り返り (ポイントと疑問点をワークシートに記入 & スマホアプリで共有) 10分

集まった不明点全てに対して質疑応答を繰り返す 10～20分

内容理解を助けるための演習問題に個人で取り組む 3～5分／問

小グループで小型ホワイトボードを使って意見交換 7～10分／問

解答例を共有 3～5分／問

繰り返し

(時間が許せば)対面授業の振り返り

組込みプログラミング1 1年次後期 選択

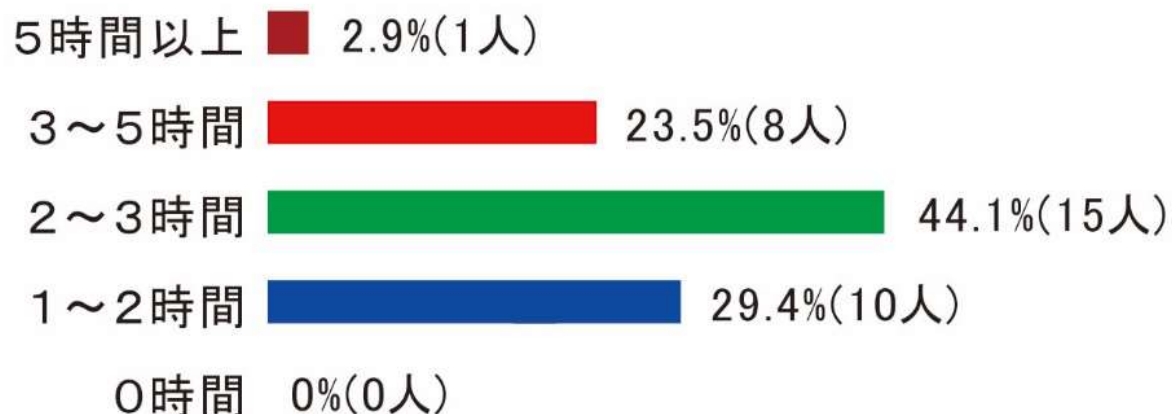
平成24年度 (FCなし)	得点	平成25年度	平成26年度
	00 - 09		
97	10 - 19	7	
9831110	20 - 29	49	
954442	30 - 39	68	
99981	40 - 49	2589	458
9976511100	50 - 59	03468	2579
96610	60 - 69	2246788	1223569
965554331	70 - 79	03345677889999	0112224677899
86541	80 - 89	0001112333466779	00123333334455567899
8833300	90 - 99	0456	0111004556
	100		
N=56 平均値58.1 中央値58		N=55 平均値69.7 中央値77	N=57 平均値76.9 中央値80

低得点者大幅減
(13→3)

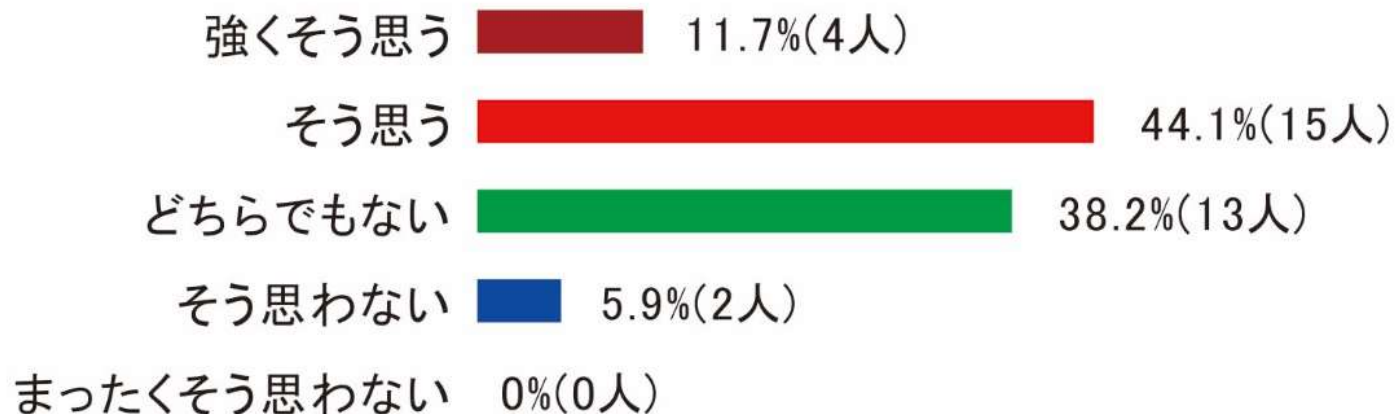
高得点者大幅増
(2→21)

平均値, 中央値共に大幅に上昇

この授業の授業時間以外に学習に充てた時間は1週間あたり
何時間ですか



事前学習ビデオの閲覧とアクティブラーニングを組み合わせた
反転学習によって学習意欲が高まったと思う



FC+AL導入のポイント

反転授業は授業のオンライン化ではない！事前学習動画は手段の一つ。ビデオが素晴らしければ、うまくいくわけではない。対面授業との連携こそが鍵！

- ✓ 簡易な学習ビデオでも効果は大きい
- ✓ 15分の前学習動画で、対面授業の30～50分のアクティブラーニングの時間が取れる
- ✓ 事前学習状況把握のために簡単なレポートやアンケート、ノート作成などを実施する（ビデオを見ながらできる程度のもの）

FC+AL導入のポイント

事前学習は予習ではない！何をどこまで事前に学習させて、それに対して対面授業で何を行うのか、などの授業設計が大切。

- ✓ 事前学習の内容は、対面授業で講義をしない
- ✓ 事前学習をしてこなかったら→最初は25%くらいの学生がしてこなくても大丈夫。妥協しない。
- ✓ 対面授業では、4名1組のグループで協調型グループワークを実施

FC+AL導入のポイント

授業改善が進む。FCとALを連携させることで、学生の状況を良く把握することができ、目に見える改善ができる。

- ✓ 15回の授業のうち、1, 2回だけ行えば、やらない方がよい。
- ✓ うまいかなかったときがあっても大丈夫。むしろ、学生の問題点が明らかになったことを喜ぶべき
- ✓ 授業方法、授業設計などを継続的に学べるFDに参加する。

おわりに

- 授業時間中に行う**教師と学生の活動は大きく変わる**。教師と学生、学生同士のインタラクションは確実に増える。
- 理解力の高い学生、低い学生のどちらにも効果がある。
- 正直**教師の準備作業量は増える**。事前学習動画の作成より、FCと連携したALの設計が大変。しかし、**教員の目に見える効果**がある。
- 反転できない授業はない

LMS(学修支援システム)による化学ALの例

※ 化学基礎、選択、1～4年、10名～60名、
授業のねらい：「基本的知識を用いて現象を捉える」

- ① LMSに予習課題を掲載し、授業への興味を掻き立て、知識、考え方を再確認させて授業に必要な基礎知識を学修させる。
- ② 例えば、授業との関連性が見出せない映像を見せて、気づいたことを書かせることにより、授業終了後にどの知識と関連性があるのか理解できるようになる。
- ③ LMSの掲示板に書き込んだ内容は、学生同士が相互に閲覧できるようにすることで、他の学生と比較することで物事の捉え方の多様性について気づかせることができる。
- ④ 教室授業では、例えば予習課題としてLMSの掲示板に書き込んだ内容をレビューし、教員と学生、学生同士で意見を出せられる雰囲気をつくる。
- ⑤ 概念を学ぶことの意味を説明し、事例を与えてグループ(2～4名)で共通項、規則性を見つけ出させることを通じて自分の考えを深める。
- ⑥ グループの考えがまとまったところで、関連する応用問題に取り組み、最後クラス全体で意見を共有する。
- ⑦ 授業の最後に学生ごとに異なる問題演習を行い、学生同士が「教える」ことを通じて自信が高まり、積極的な参加態度が向上する。

【分科会：A】 ICTを活用したアクティブ・ラーニングの取り組みと課題

学修マネジメントシステム を用いた事前・事後学修

東海大学教育開発研究センター次長・理学部准教授

及川 義道



TOKAI
UNIVERSITY
EDUCATIONAL SYSTEM

於 2016.09.07 教育改革ICT戦略大会

e-科学の概要

e-科学 A	： 数学分野（物理／化学科学生向け）
e-科学 B	： 物理学分野（数／情報数理／化学科学生向け）
e-科学 C	： 化学分野（数／情報数理／物理学科学生向け）

科目の共通仕様

- 学修内容は、科目担当者が立案し、学部教員と相談の上で決定
- ICTを活用した授業
- アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的学修が主体

e-科学Cにおける授業の流れとAL戦略

予習

- 自分の現状を把握させる: 現在持っている見方, 考え方, 知識の確認
- 簡単な現象を, 現在持っている知識を使って考え, その結果を事前に電子掲示板に投稿させる. (正しい答えを出すことが重要ではなく, 今の自分を知ることが重要である点を, 学生に強調.)
- ビデオ画像を用いた注意喚起: 授業への期待感を高める
 - 授業の内容と関連するデジタルビデオ情報を事前に閲覧させ, そこから気づいたことを電子掲示板に投稿させる. (授業内容に関する関心を引くとともに, 興味の方向性のある程度制御.)
- 調査等事前学修: 自ら学ぶという行為の体験, 必要最低限の知識の準備
 - 知識や現象に関して調査させ, 電子掲示板に投稿させる. (投稿内容を授業に反映させ, 主体的な学修が無駄にならないよう配慮.)

e-科学Cにおける授業の流れとAL戦略

復習

- 学修した内容を振り返らせる: 要点をレポートにまとめて提出させる.
 - 学習内容の要点をまとめさせることで, 自分が何を知り, 何がわからないのかを認識させる.
- 疑問点を調査させる: 能動的な課題の発見と, 周辺知識の自発的学修の促進
 - 自分の発見した疑問点を自ら調査・学修することで, 自らの学修を自らが制御していることを体験させる. (受動的学習から能動的学修へ)
 - 周辺知識を自ら学ぶことで, 知識の印象を強化する.

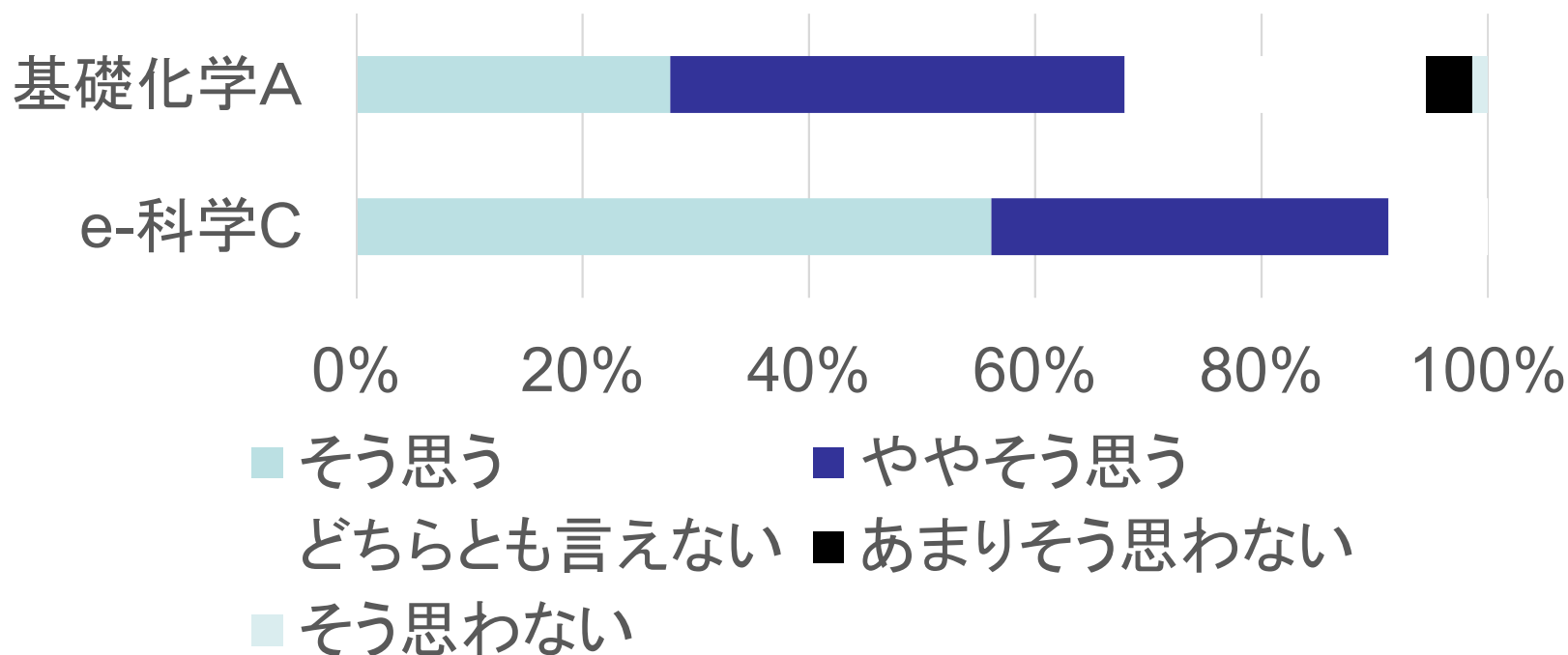
e-科学Cにおける授業の流れとAL戦略

授業

- 発見する機会を増やす: 複数の事例から法則を発見させる.
 - 解説は思考, 発見に必要な内容に止め, 複数の例を提示して, その中から共通するルールを発見させたり, 実験(演示実験, 学生実験等)の結果から, 法則性を見つけたりさせる. (自ら知識を発見することで, 印象を深める)
- 考える機会を増やす: 獲得した知識を用いて別の現象を考察する.
 - 発見した知識毎に, 当該知識を適用して現象を考えさせたり, 実験結果を予測させたりする. (知識をすぐに利用させて, 理解と定着を図る)
- 文字に起こし, 説明する: 考えをまとめる. 説明することで考えを深める.
 - 頭の中に漠然と存在する知識を文字として表現することで, 整理と客観化を促す. また, 他者にその内容を説明することで, 知識の深化と内省を促す.

授業についてのアンケート調査結果

総合的に評価すると、この授業を受けて満足した





Otaru Univ. of Commerce

ICTを活用した大人数授業における 双方向型アクティブ・ラーニング

国立大学法人 小樽商科大学

社会情報学科准教授／学長特別補佐（アクティブラーニング開発・AP担当）

大津 晶

e-mail : ohtsu@res.otaru-uc.ac.jp



大規模クラスのA L手法の開発

「コミュニケーション・ラーニング」

コミュニティワーク（≡グループワーク）を基軸とし、
大規模クラスにおける効率性・持続性・議論の多様性
の向上を目的としたアクティブ・ラーニングの形態

■ 多様なコミュニケーション形態の導入

- ◇ 席替えルーチンによる定期的なグループシャッフル
- ◇ 学修管理システムmanabaを活用した反転型授業構成
- ◇ コミュニケーション支援アプリresponの積極的活用
- ◇ 対面ディスカッションとオーラルプレゼンテーションを重視

■ スマートデバイスを活用した授業支援

- ◇ スマートフォン（BYOD端末）を用いたウエブ・クリッカー
- ◇ マルチスケール／ダイナミック・グルーピング



大規模クラスのA L手法の開発

■ 初年次キャリア教育への導入

- 講義名称：総合科目Ⅱ（大学の学びと社会）
- 受講生：昼間コース1年生360名（新入生総数＝450名）
- 内容・題材：
 - ・ 自己効力・モチベーション
 - ・ チームワーク・リーダーシップ
 - ・ メンター・発達のネットワーク
 - ・ 適性・キャリアアンカー
 - ・ ストレッチ目標
- 授業構成：
 - ① 事前課題：テキストや動画資料を用いた予習 [manaba]
 - ② 講義・ディスカッション：グループやコミュニティでディスカッションに取り組む協調的な演習
 - ③ プレゼンテーション：事前課題や演習成果の発表と相互評価
 - ④ 事後課題：講義・演習などの振り返りと定着 [manaba]
 - ⑤ 合宿：一泊二日の合宿研修（希望者のみ80名程度）



事前事後学習を強化した反転型講義構成

【事前課題】

インターネットで配信されている動画資料を視聴し、以下の作業を行ってください。

- 1) 「リーダーの12の役割・機能」を基にして、プレゼンテーションに登場する5人の指揮者のリーダーシップを分析する

- ◇ 学籍番号① リッカルド・ムーティ
- ◇ 学籍番号② リヒャルト・シュトラウス
- ◇ 学籍番号③ ヘルベルト・フォン・カラヤン
- ◇ 学籍番号④ カルロス・クライバー
- ◇ 学籍番号⑤ レナード・バーンスタイン

- 2) ワークシートを記入してmanabaで提出し、記入済みワークシートを印刷して次回講義に持参する





respon : リアルタイムアンケートアプリ

- ◇ コミュニケーション・ラーニングのためのスマートフォンアプリ (iOS・Android)
- ◇ 学修管理システムmanabaと協調して使用
- ◇ manaba「出席カード」の仕組みを拡張したクリッカーおよびコミュニケーション支援





responを利用した出席＋自習時間確認

【①カード番号提示（教室スクリーン）】

講義外学習時間の確認

respon ⇒ 5 8 6 5 3 9 * * *

○アンケートに回答する

前回の講義の後、この科目のための学習（復習・予習など）に、どの程度の時間かけましたか？

- ① 1時間 ～ 2時間
- ② 2時間 ～ 3時間
- ③ 3時間 ～ 4時間
- ④ 4時間 ～ 5時間
- ⑤ 5時間 ～

【②出席カード提出（スマートフォン）】

出席カード提出

1 2 3

4 5 6

7 8 9

GO 0 ←

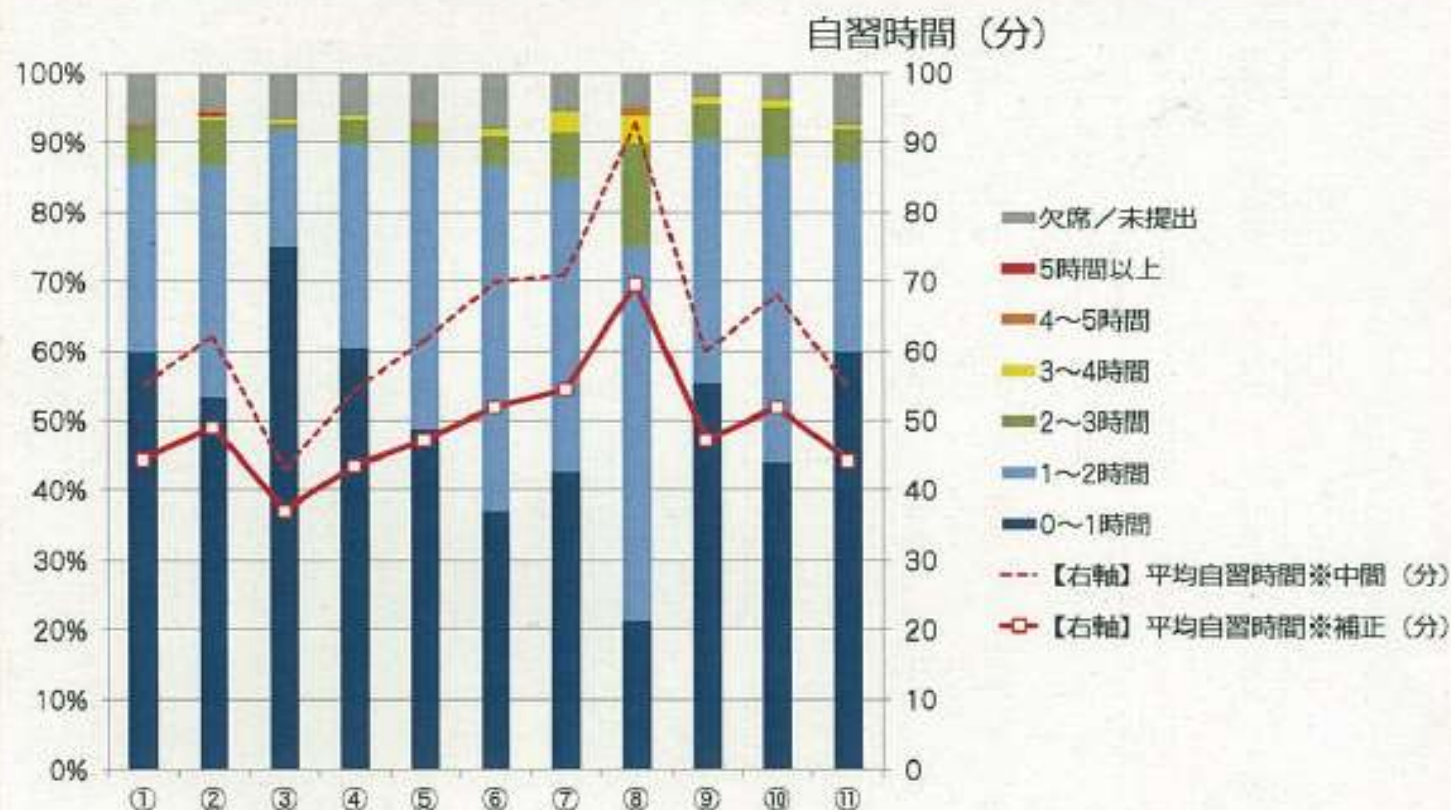


【③集計結果の表示（スクリーン＋スマホ）】



responを利用した出席＋自習時間確認

Otaru Univ. of Commerce



平成27年度「総合科目Ⅱ (大学の学びと社会)」自習時間の推移 (5月～7月)



受講生のコメント

- 社会に貢献したり、豊かな人生を送れる人になるためにはどんな基礎的な能力や知識を身につければいいのかをグループワークや宿題を通して深く考えることができた。
- 自分の意見を述べて議論を行うことで、他者に同意してもらうためにはどのような工夫が必要かを学ばせてもらった点。
- 事前課題で自分のエピソードを書き出すことで自分に対する理解が深まった点
- **最先端**
- **画期的なアプリを使った講義は新鮮でした**
- **スマートフォンやタブレットを使って資料を読んだり、みんなの意見を見れたりするいままでにない授業形式だったこと。**
- コミュ障が多少なりとも改善された。
- コミュニケーションを図らないとうまく進行できないのでコミュニケーションを促進できていると思う。
- **responを使って周りの人の反応や意見を簡単に見ることができる点**



傾聴・熟考型アクティブラーニング

■ 科目名：エバーグリーン講座（総合科目Ⅲ）

- 卒業生によるオムニバス講義（開講29年目）
- 受講生：250名程度（1・2年生が6割程度）
- 担当教員：コーディネータ（大津）＋各学科1名

■ 特徴

- 学習管理システム（LMS）の全面的活用
- 事前レポート（予習）による予備知識と問題意識の獲得
- 事後レポート（復習）による理解定着
- 予習を重視した反転授業（※未提出者は出席認めず）
- responを用いた質疑・双方向ディスカッションの充実
- 履修記録・受講者データの解析（⇒大学IR（教育））

■ 社会人基礎力の育成

- 座学・大人数講義における社会人基礎力の育成
- 同窓会による社会人基礎力調査と連携



傾聴・熟考型アクティブラーニング

- ◇ 同窓会の全面的な支援により，実社会で活躍する幅広い世代・多様なキャリアの卒業生を講師としてお迎えする連続講義です。
- ◇ 今年で開講29年目を迎える歴史のある講義です。
- ◇ 先輩の貴重な経験に触れ，卒業後のビジョンを明確にすることと同時に，**学生時代に「何を（どのように）学ぶべきか」について示唆を得る機会を提供します。**



ICTを活用したアクティブ・ラーニングの 取り組みと課題

「双方向性遠隔教育システムを活用したPBL教育」



2016年度教育改革ICT戦略大会 (2016.9.7)

丹羽雅之

医学教育全国共同利用拠点

岐阜医学教育開発研究センター

PBL(対面型)

- 岐阜大学では全国に先駆け1993年より臨床実習前教育(基礎・臨床)のすべてをPBL教育で実施している
- PBL教育の導入により、知識獲得能、国家試験合格率等の有意な増加を確認 (Niwa, M et al., Health Professions Education, 2016)
- 多数のチューター(教員)、小部屋など多くの設備が必要
- 対面・グループでの実施が原則(時間・空間の制限)



On lineでPBL

Internet PBL=楽位置楽The Tutorial

e-Learning systemの構築

- **PBL教育**: シナリオ, 画像、動画、シラバス等を配信し、問題
基盤型学習を支援
- **インターネットPBL**: 国内(学部版、大学院版)、国際版(英語)
- **シミュレーション教育**: 作成した各種動画コンテンツを配信
- **eポートフォリオ**: 学生が実習体験を振り返り、教員がフィード
バックできるシステム
 - ✓ 「地域体験実習」・「医療面接」用 eポートフォリオの構築・実践
- **医学教育セミナーとワークショップ参加者データベース**
 - ✓ 参加申し込みサイト
 - ✓ アソシエイト、フェローシップ認定

インターネットPBL/楽位置楽The Tutorialシステム

フロントページ

発言ボード

シナリオ掲示画面

学部版



大学院版



英語版



自己紹介画面



Internet PBL

● [Internet による Problem Based Learning](#)

- ホームページを用いて教材（シナリオ）の提供
- 「web掲示板」を用いて学生間の 討論、チューターの助言、学習成果の発表を行う（実施初期にはメーリングリスト）
- 学生、チューター、ディレクターはいつでも、どこからでも学習に参加できる
- [大学間の交流、教員・リソースの相互利用が可能](#)
- 国際交流（英語教育）

インターネットPBL: 正式カリキュラムとして実施

➤学部教育

- ✓学部教育における正式カリキュラムコースの開始
 - 2002年度～「医療と生命Ⅰ」コース: 岐阜大学全学共通教育(1年生)
 - 全国複数(7大学)が正式カリキュラムの一環として参加。
- ✓英語教育
 - 2006年度～「英語で学ぶ生物学」コース
- ✓BLS教育
 - 2006年度～「BLS あなたが助ける人の命」コース
- ✓シミュレーション医学教育
 - 2007年度～「医療と生命Ⅲ(学内限定、定員性)」コース

➤修士課程教育

- 2006年度～岐阜大学工学部ライフサイエンスセミナー(正式カリキュラム)
- 2006年度～遺伝カウンセリングコース「くらしきテュートリアル」
 - ・遺伝カウンセリングに必要な基礎知識と技法を習得する

➤博士課程教育

- 2007年度～「インターネットで寄生虫学を学ぶ」コース(医学系研究科)
 - 2007年度～「医用分子システム工学特論」(連合創薬医療情報研究科補完コース)
 - 2007年度～「医用工学概論」(連合創薬医療情報研究科補完コース)
 - 2008年度～「生体ラジカル制御学」(連合創薬医療情報研究科補完コース)
 - 2011年度～「マシーンと人体」コース(医学系研究科)
-

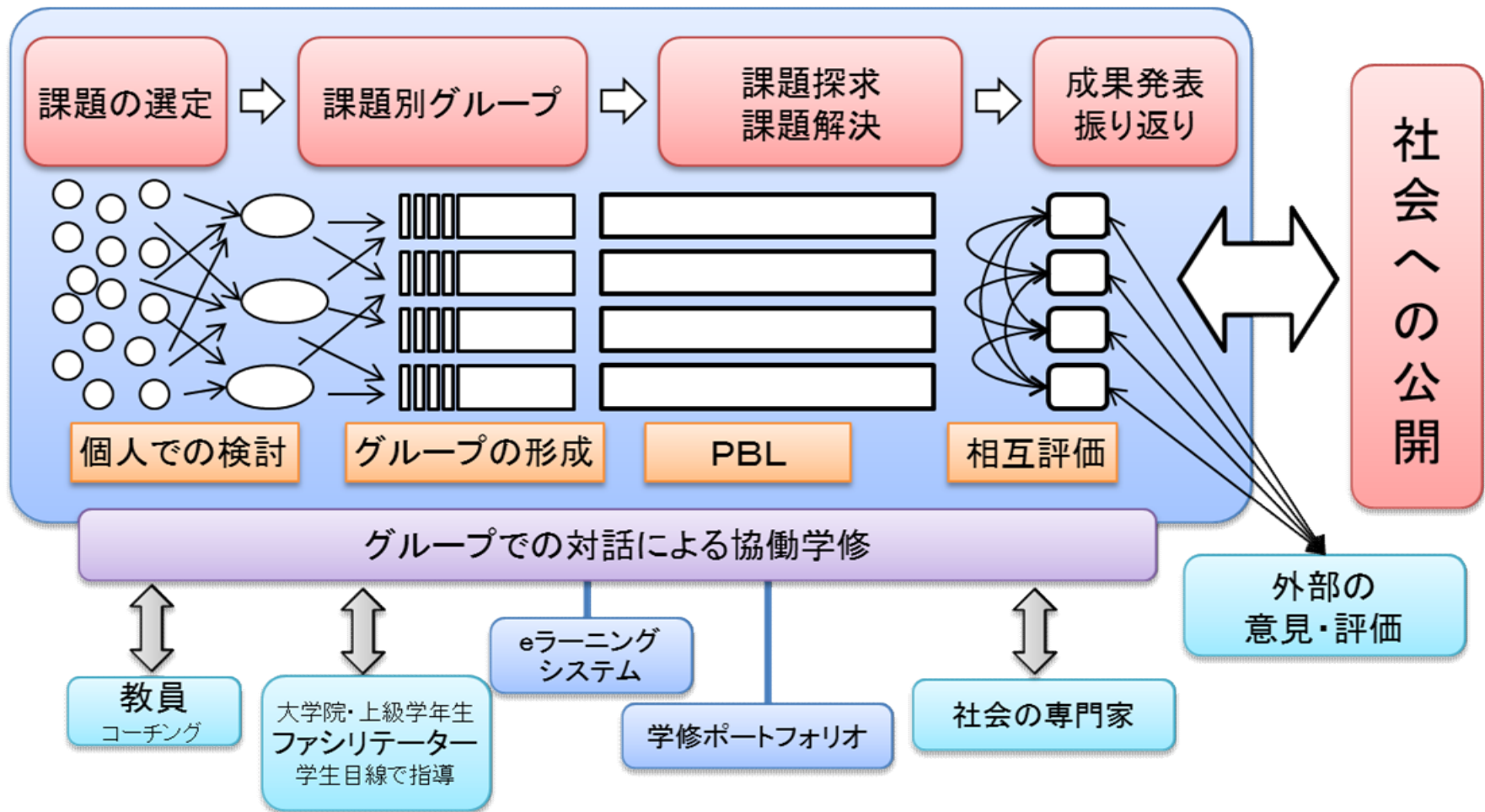
Inter-Professional インターネットテュートリアル コース
 (職種間連携 (IPE) を視野に入れたコース)
 (例) 2009年実施「医療と生命 I」コース



単位取得判定基準例

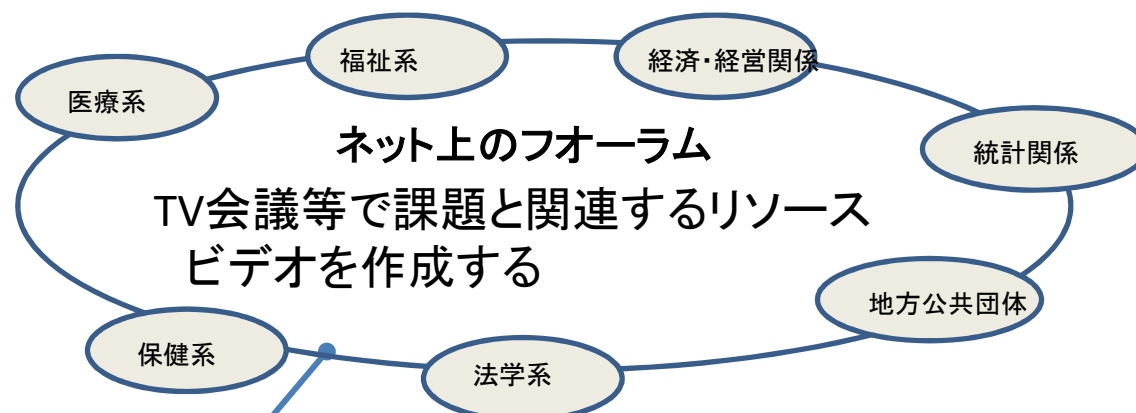
- A大学(1年生選択科目)
 - 無異議とレポート内容(内容が複雑なものは再提出)
- B大学(1・2年生選択科目)
 - レポートと各自がインターネット上に書き込んだ内容を併せて十分な自学自習がなされていると判断できたものに単位を与える。
 - 無異議(書き込み)が3回程度しか無い場合、よほどレポートの独自性がないと不合格。
 - 例年卒業進捗度が平均値。
- C大学(2年生必修科目)
 - 出席・発言回数: 50% レポート評価: 50%
 - 毎週水曜日本2限に時間を決めてアクセス。

対話・議論による協働学修で 創造的な知性を創り出すモデル

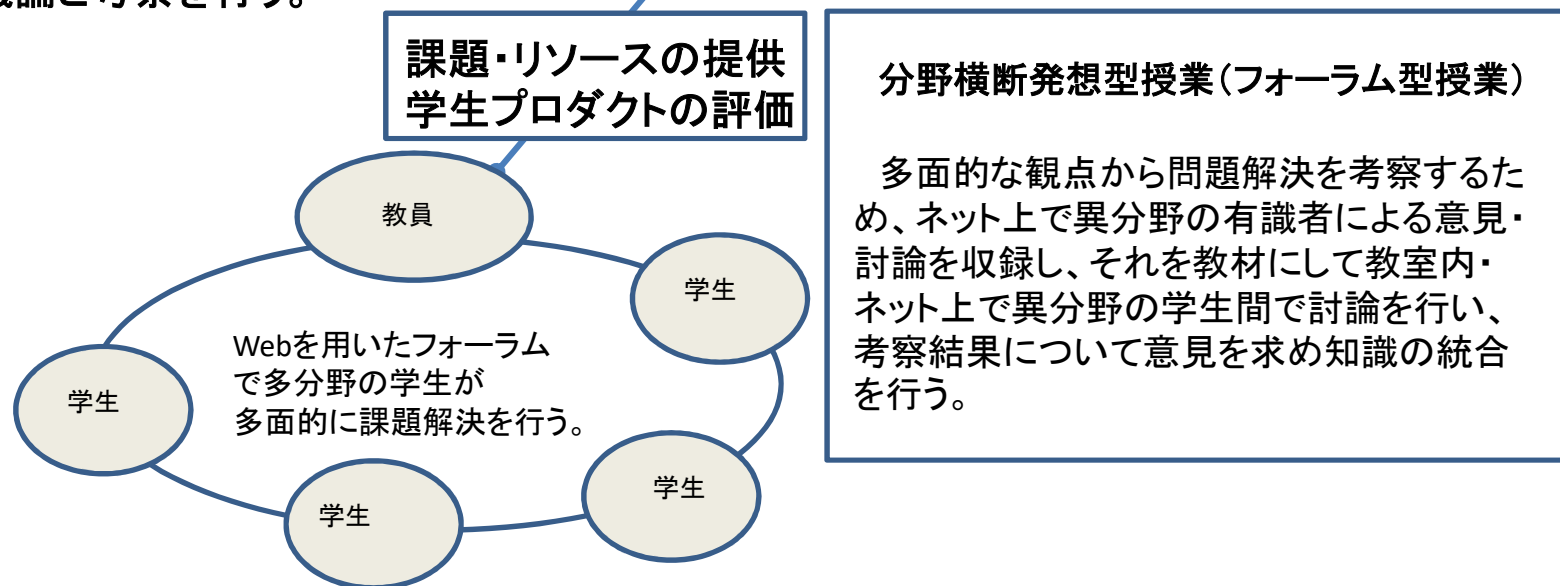


フォーラム型授業のイメージ

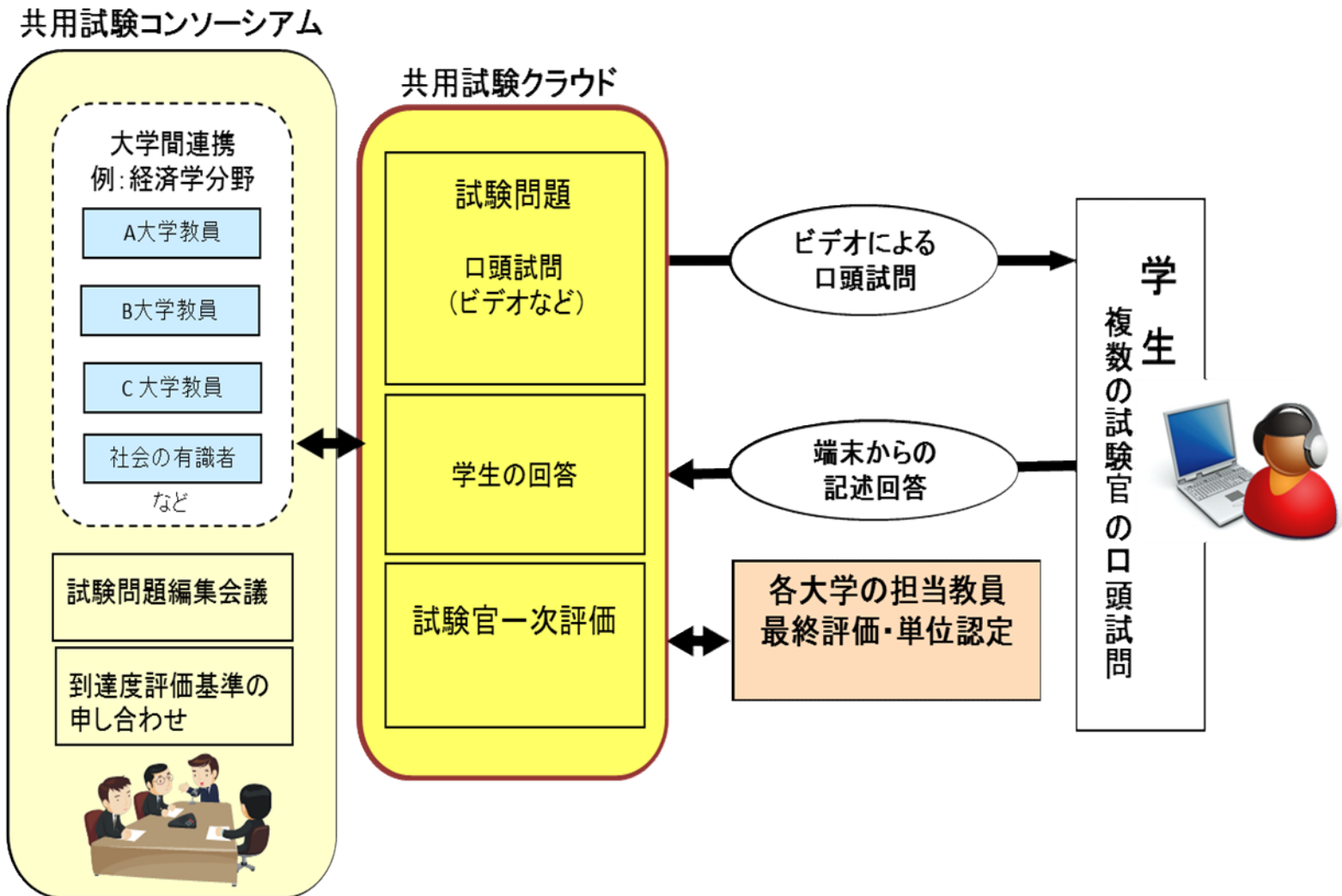
1. ネット上で有識者間の討論を行う



2. Web上で課題について医療、福祉、保健、行政を含む 異分野の学生が多面的な議論と考察を行う。



到達度の外部評価(ビデオ口頭試問)



教学マネジメントとICT戦略

※ 教員・職員の意識合わせ

学内サイトに入学から履修、卒業後の状況を掲示し、改革に向けて危機意識の共有化を図る。

※ 学士課程教育に対する理解定着と教育課程の体系化

教員中心による授業科目編成から学位プログラム中心による科目編成への転換(教養と専門の科目統合等)、学士力の到達目標と授業科目との相関表、カリキュラムマップを学内サイトに掲載し、教育課程体系化の明確化を図る。

※ シラバスの相互点検

学内サイトで学士力と授業科目との関係性、教室での授業内容・方法及び事前・事後学修について点検・確認し、シラバスの改善・充実を図る。

※ 学修成果の可視化

学修ポートフォリオによる学修履歴・学修成果を明確化して振り返りを行い、次に向けた学修改善を計画させる中で質保証に取り組む。

※ 教育効果を点検・改善するIRの構築と内部質保証

外部機関による学修到達度調査(PROG等検定試験)、学修時間・満足度含む学修行動調査、学修ポートフォリオ、ルーブリック評価と学内の試験、教育・学生データを組み合わせて教育活動を分析し、教育組織、教育プログラムの検証を通じて、内部質保証の改善を図る。

例えば 授業科目数の調整・統合、退学者防止対策、学力不足学生への対応、入学者選抜対策、教育組織の改廃、教職員数の調整、資源配分の適性化などの教学マネジメント改革が望まれる。

※ 組織的教育の確立

学内サイトに全ての教職員が意見交換できるポータルサイトを設け、教員間連携による教学マネジメント体制を構築。

学修環境整備に向けたICT環境

※ 教員全員が使える学修支援システムの構築とアーカイブ化

シラバス、事前・事後学修の教材、小テスト・課題の掲載、レポート提出、学修時間・学修行動の把握

※ クリッカー等の整備

理解度や授業での反応を即座にグラフ等で可視化し、授業運営に反映

※ eポートフォリオ、学生カルテの整備

学修成果を掲載する学修ポートフォリオ、学生の適性・進路・価値観・経済支援など個人情報体系化した学生カルテを連動した学生支援システムの構築

※ ラーニング・コモンズの整備

学外と接続してテレビ会議を可能にする無線LANの充実、デジタルコンテンツのアーカイブ装置、タブレット端末・電子黒板等の整備

※ 反転授業のビデオ教材製作環境と支援組織の整備

教材作成のソフト・パソコン・カメラ及び録音機器とスタジオ、授業コーディネータの配置など

※ 能動学修の授業設計、ICT活用のFDを支援するポータルサイトの整備

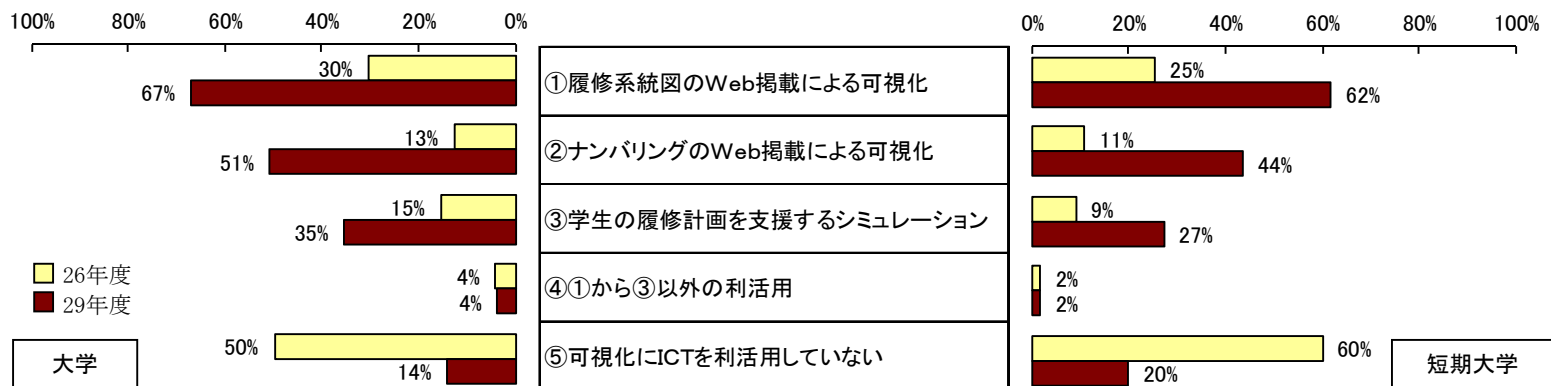
※ IRシステムの構築と分析・検証・改善を検討する組織の構築

教育研究活動、経営活動に関する統合データベースの構築、IRシステム運営組織の設置、
データ分析・改善提案を検討する専門組織の構築

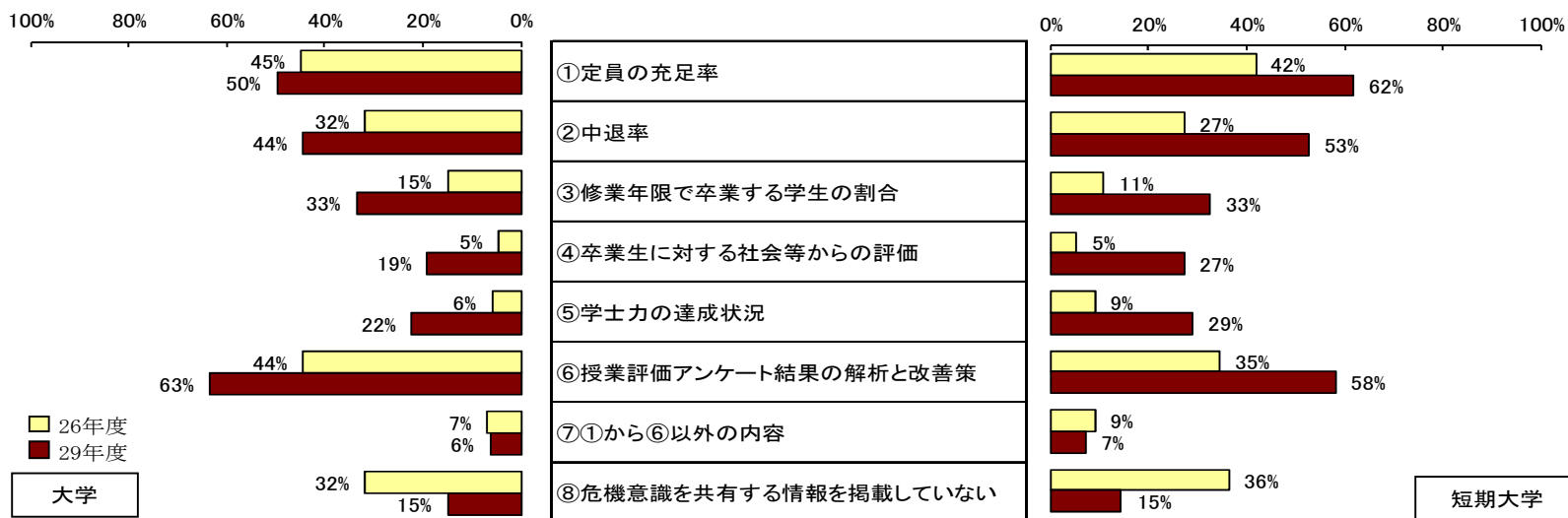
※ 社会・産業界との連携サイトの整備と組織体制

教学マネジメントのICT活用状況(1)

1. 全学的に教育課程の体系性を可視化するICTの活用

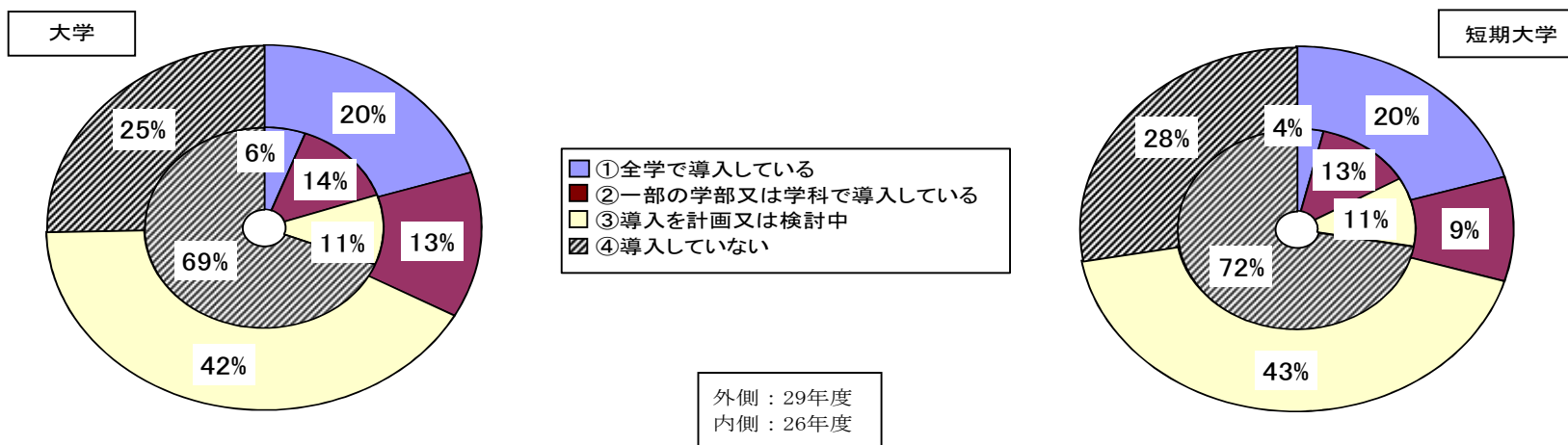


2. 教育活動に関する危機意識を学内で共有する情報の掲載

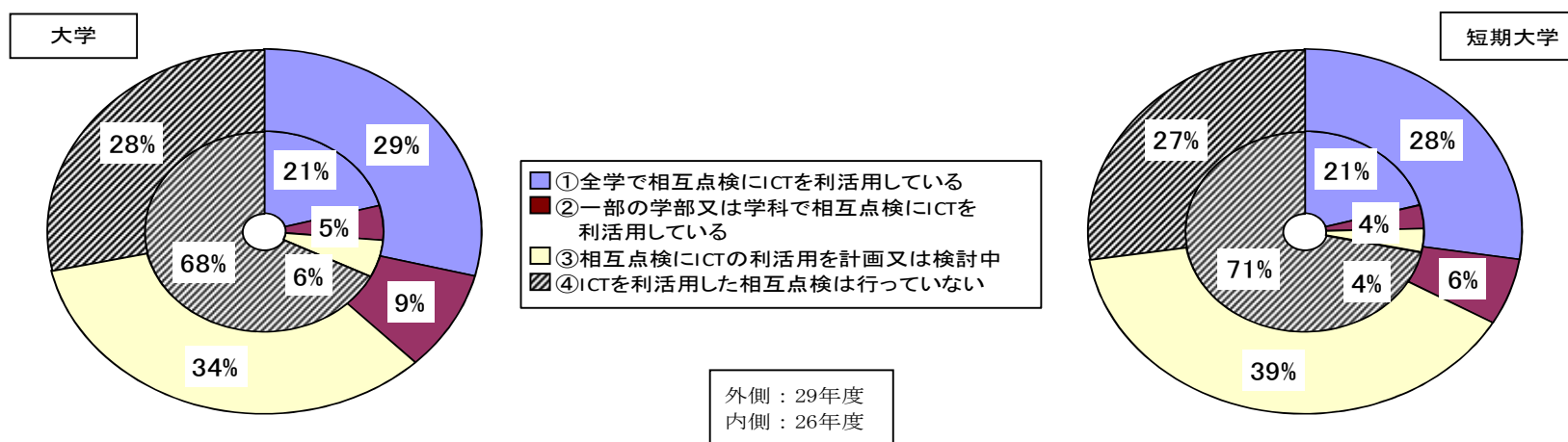


出典：平成26年度私立大学情報環境白書

3. 教員の授業や学修指導を自己点検・評価するeポートフォリオの導入

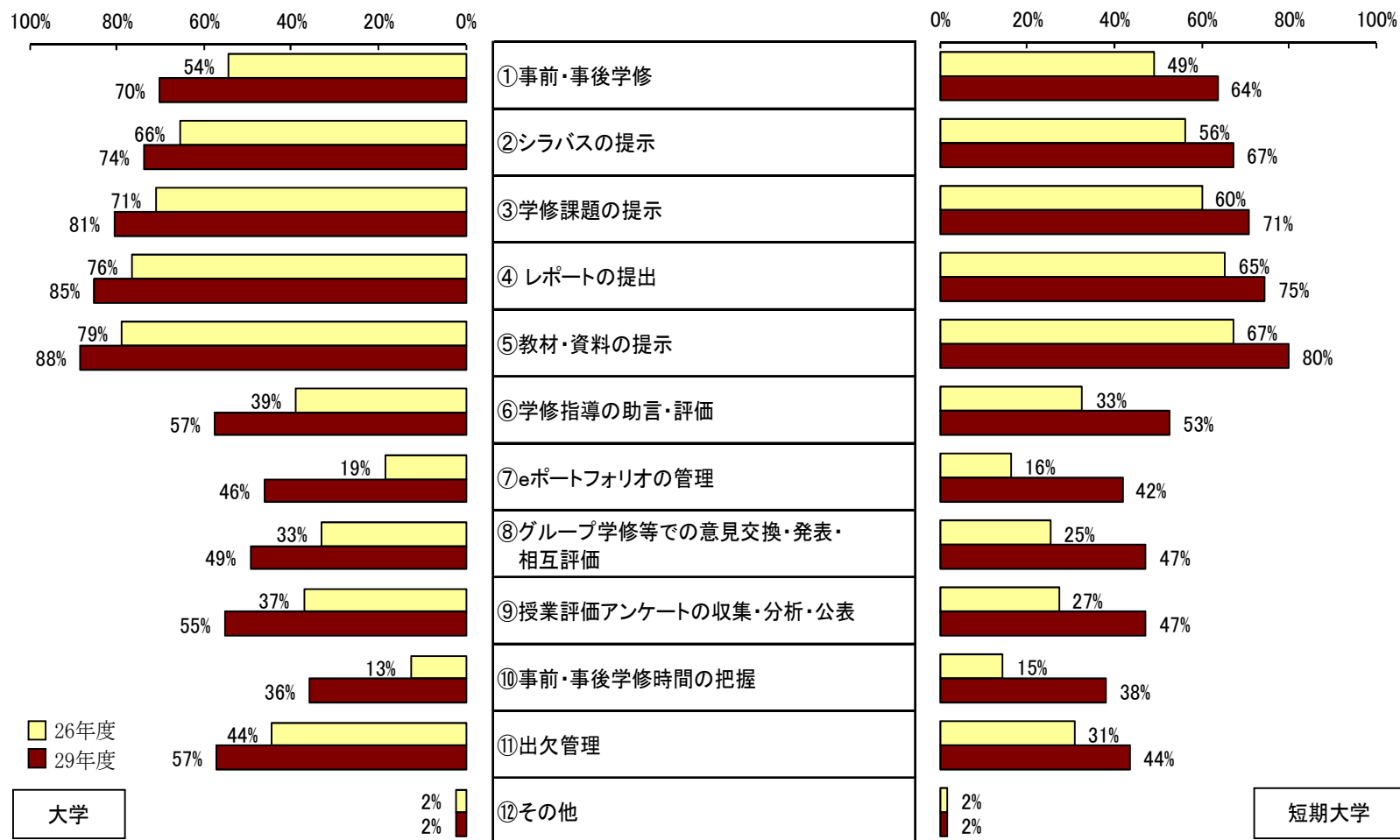


4. ICTを利活用した教員相互によるシラバス点検への取組み



学修支援システムの活用内容

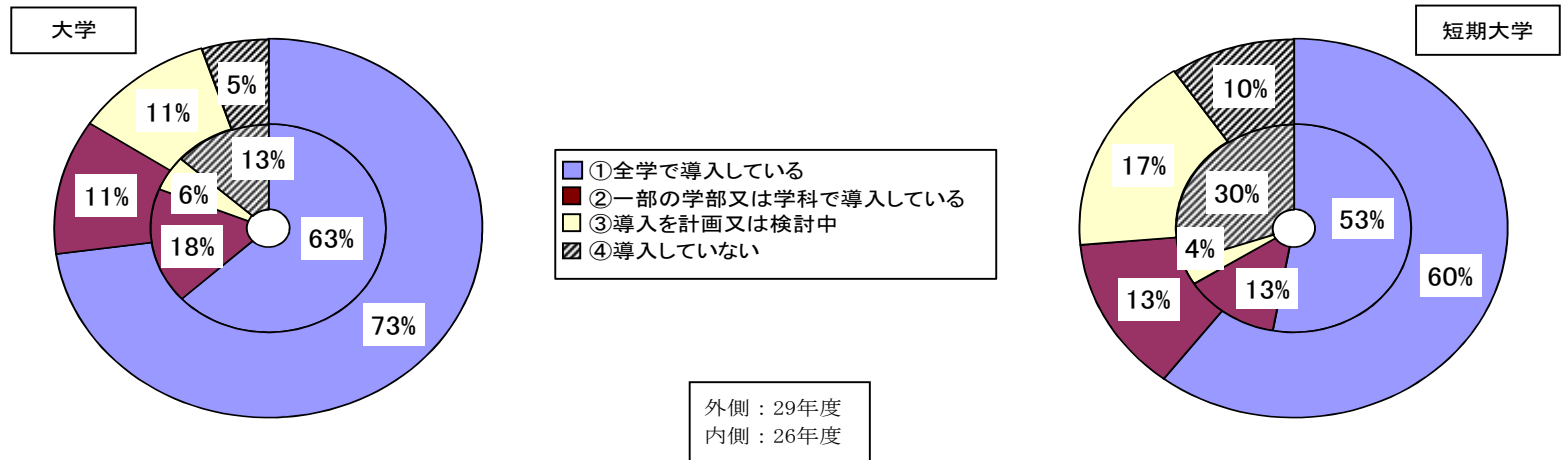
3. 学修支援システムの活用



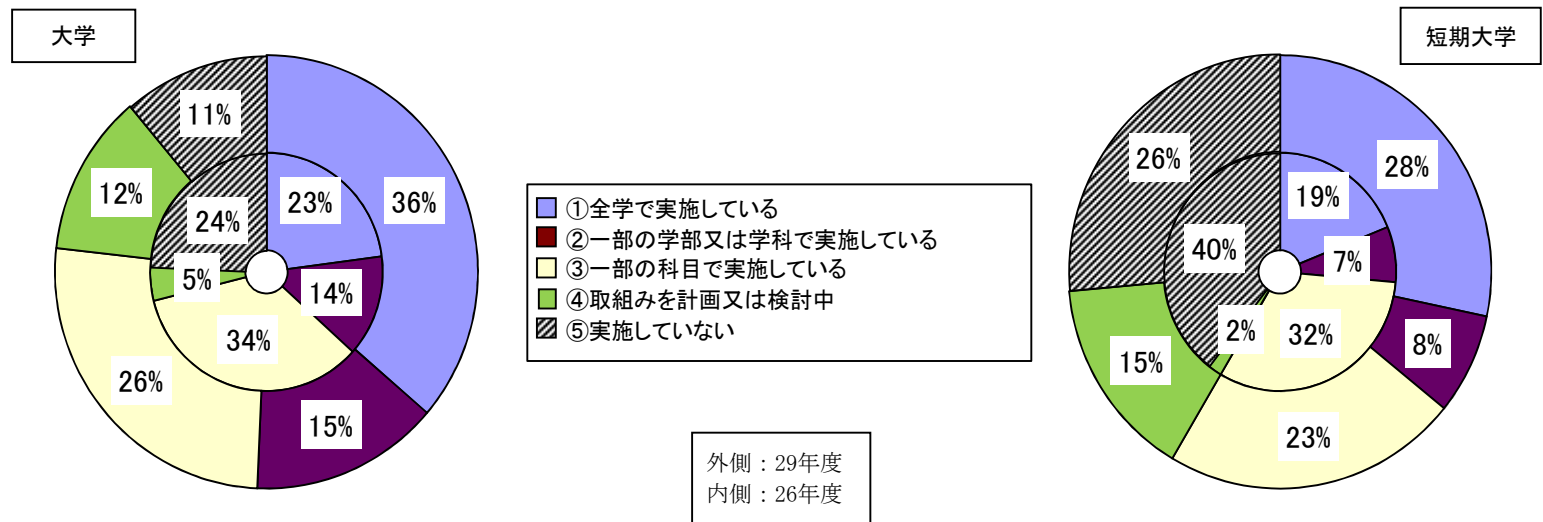
出典: 平成26年度私立大学情報環境白書

学修支援システム導入とeラーニング実施状況

1. 学修支援システムの導入状況

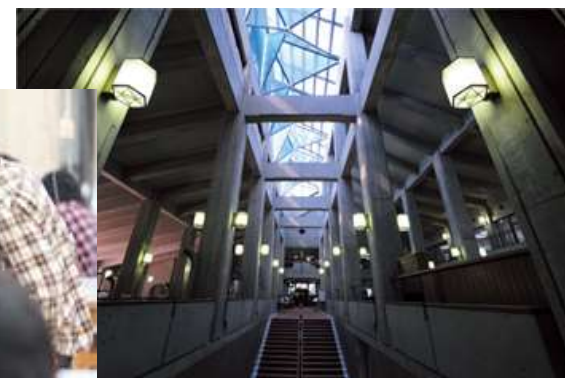


2. eラーニングの実施状況



出典：平成26年度私立大学情報環境白書

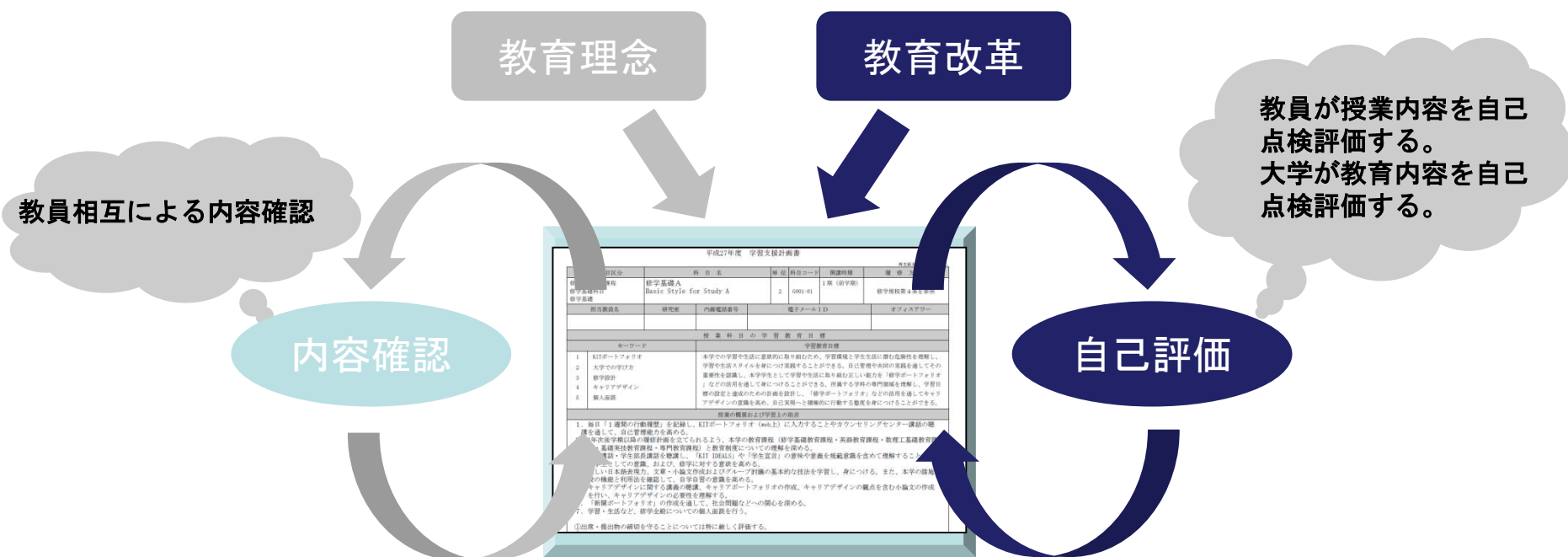
シラバスによる教学マネジメントと IRによる修学指導の取り組み



河合 儀昌
金沢工業大学 常任理事
情報処理サービスセンター所長

① シラバスと教学マネジメント

- ② シラバスには、各授業科目の目的、学習・教育内容を明示し、学生目らが積極的に学習できるような「学生中心型の教育」への展開を図る。
- ③ 大学の自己点検・評価の一環として、授業内容を公開し、教育機関としての責任を明確にする。



アクティブラーニングの起点となる『e-シラバス』は、各種教材を統合管理する学修ポートラルとしての機能と共に、学修状況の把握ができる実績管理の機能を提供し、また授業内容に関連性がある課外活動にもリンクする

e シラバスシステム

課外活動との
関連をリンク



回数 日付	学習内容
第1回 /	●修学基礎ガイダンス ・「大学生として学ぶ」ということの意味（「生徒」と「学生」の違い。「教える」の違い、など） ・入学での学び方（ノートを取り方を教える） 【持参物】 『修学基礎2015』
第2回	●学長講話（講師：石川憲一 学長）



学生一人一人と向き合う修学

IRによる修学指導の取り組み

社会背景



大学
進学



入学



修学状況が
芳しくない

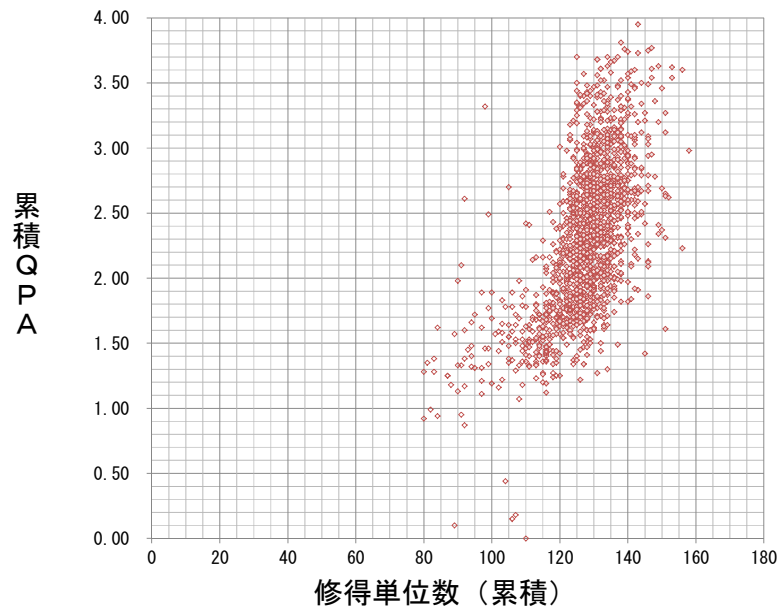
修学指導対策会議の取組内容

一人一人の学生の修学状況把握

2種類の修学状況チャートAとBを作成し、学生の修学状況を把握

A

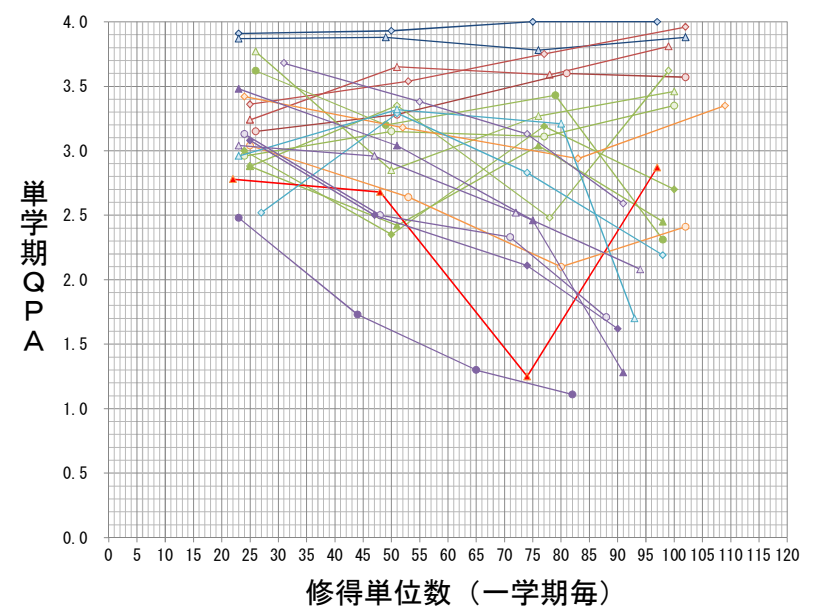
全体の中の一人一人の学生の位置を把握



一つの点が学生一人の単位数とQPAを表現
【例】3年次の状況

B

一人の学生の学期毎の変化を把握する



一本のラインが学生一人の学期毎の単位数とQPAの変化を表現

- 成績の優劣に関わらず、学生一人一人の変化を察知して、早期指導を可能にする
～どの時期に学生がつまづいたのか？伸びたのか？一目で把握でき、より適切な面談を可能に～
- A、B2つの修学状況チャートから修学上の問題を発見し、教育支援策の充実を図る

QPA：最高値を4としたGPAに相当する成績評価

KITのIRアプローチ

目的: 学生指導を充実する為の修学支援情報の収集と活用を段階的に実施



1

情報収集、事象の検知、推論の協議

- ・留年生、休学者の増加
- ・修学状況悪化学生の前兆予知
- ・学生との面談から得られる印象、情報



2

IRデータの分析と検証

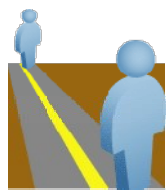
- ・学内データの徹底利用
- ・推論の裏付けとなるIRデータ分析
- ・学生指導KPI情報の定期的提供



3

学生指導対応策の検討と実施

- ・関連部局への直接アプローチ
- ・具体的対応策を担当部局と検討
- ・Face To Faceな対応策実施



4

効果確認、対応策再検討

- ・該当IRデータによる効果検証
- ・対応策の効果検証と反省、改良検討
- ・実施過程での派生的事象への対応

IR(大学自己診断)の活用

<目的>

大学が掲げている活動の適切性を判断するため、学内で客観的な調査を実施し、自己点検・評価を行い、改善・向上に有用な提案を意思決定にかかわる責任者及び組織に働きかける。

<活用範囲:例示>

- 教育活動の中長期戦略
- 教育政策の見直し(教育方針、社会に送り出す卒業生像など)
- 教育活動の見直し
(教育プログラムの効果判定、学修成果の検証と質保証)
- 入学者選抜の政策(求める入学生像や特色ある選抜試験)
- 教育情報公表内容の改善
- 教育、経営活動に対する学内の人・物・資金活用の最適化
- 大学の認証評価対策
- 国の財政援助・寄附の拡大戦略、国際交流の推進政策等

京都光華女子大学・短期大学部の取組

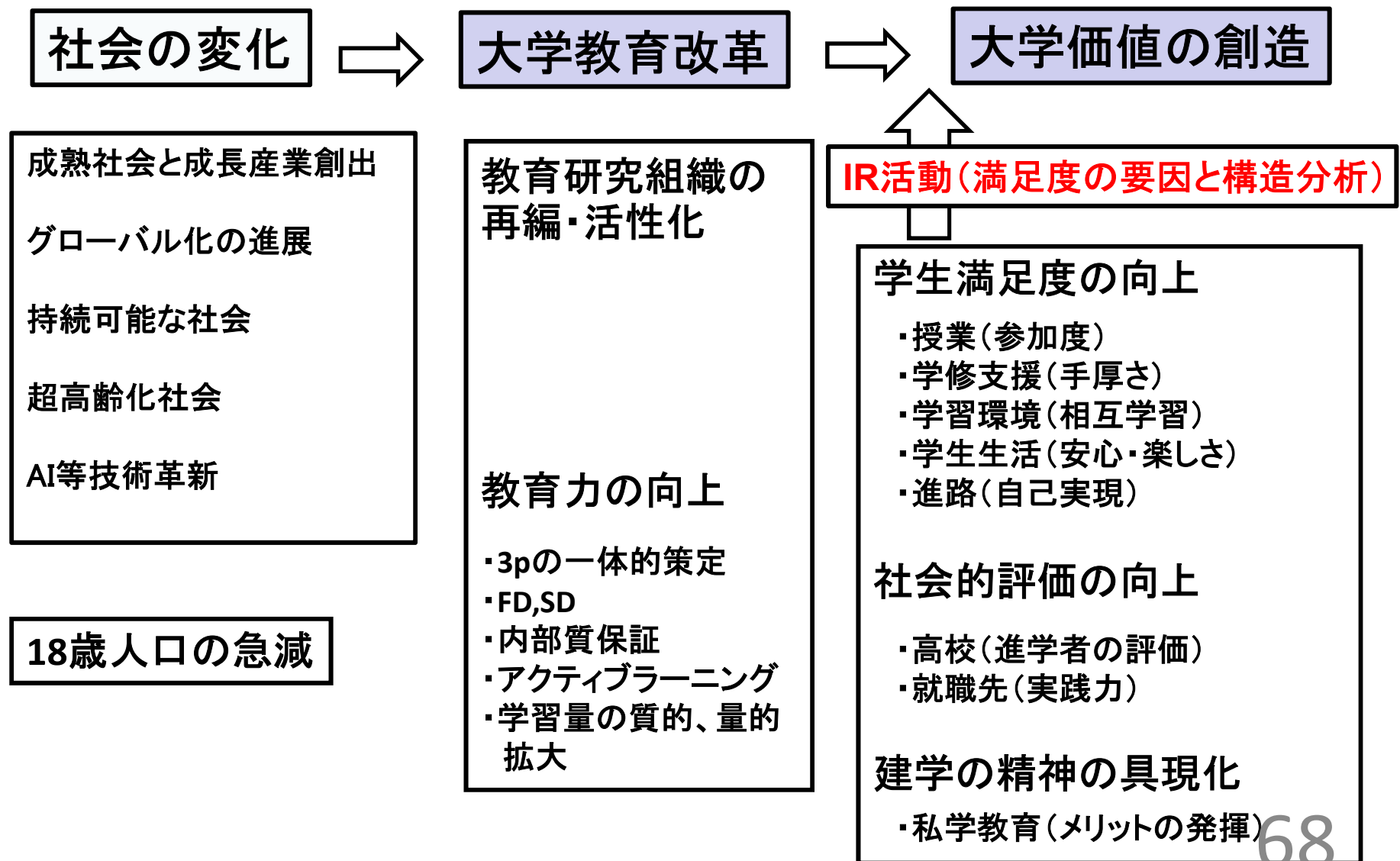
大学の価値の向上を目指したIRの試みとICTシステムの構築

京都光華女子大学・短期大学部
副学長 EM・IR部長
水 野 豊

EM・IR部 部員(IR担当)
橋本 智也

1. 大学改革と大学の価値を高めるIR

～教育の質転換と社会変化（人材ニーズ、少子化）～



平成28年度の学修アセスメント体系(大学)

Koka's Heart*

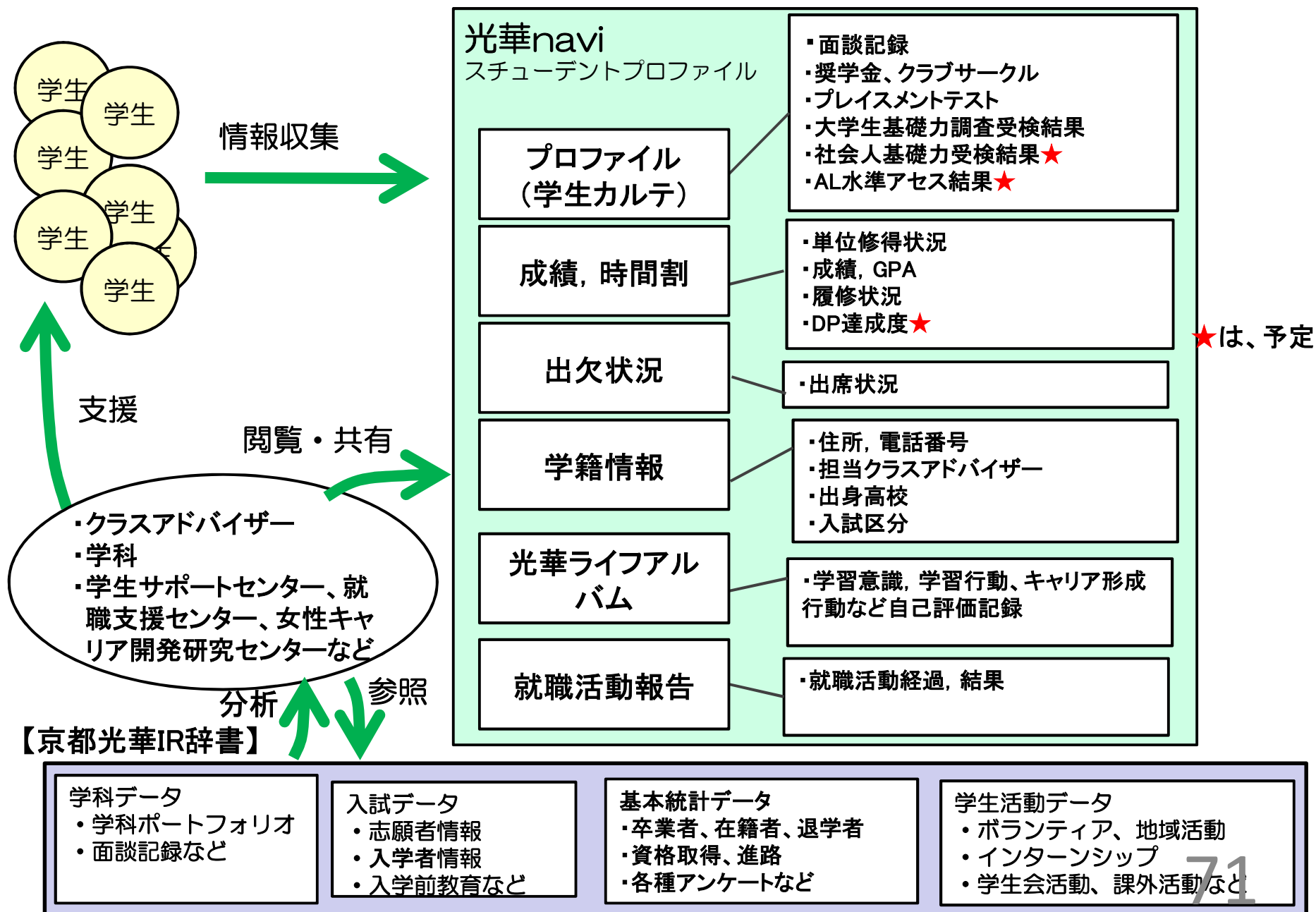
区分	4月	5月	6月	10月	1月	3月
1年	テスト プレイスメント	テスト 大学生基礎力	光華ライファルバム	光華Aレアセスメント		
2年					社会人基礎力 テスト	DP ルーブリック
3年						
4年						卒業時アン ケート DP ルーブリック

※社会人基礎力テストの時にカリキュラム満足度、進路意識など付帯調査予定
今後、京都光華コモンベシックルーブリックの開発を進める

区 分	概 要
大学生基礎力テスト	入学段階での学生の入学動機、学びの意識、基礎学力、進路意識等を把握
光華ライフアルバム (学生支援GP)	学生の学生生活の状態や進路形成行動などを客観化させ、内省を通じて自らを自主管理できる能力を育成
光華ALアセスメント	学生のアクティブラーナー度(主体的な学修態度・行動)を客観的に可視化するため大学APで開発中のもの
社会人基礎力テスト	社会で求められる能力を「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から客観的に測定しようとするもの
DPルーブリック	ディプロマポリシーを構成する項目ごとに学生が自己評価し、DP達成度を測定。教育成果の間接的な評価として活用
卒業時満足度アンケート	授業や進路をはじめ学生生活全般について卒業生の満足度を把握

学生支援情報システム「光華navi」と京都光華IR辞書

Koka's Heart*



6. IRを活用した分析事例の紹介

○入学後の円滑な適応【早期退学者防止対策】の例

○授業改革（寄り添う教育・鍛える教育）の展開例

- ・カリキュラムマップの「DPと授業科目の関連性」の表記の改善
- ・科目担当教員が想定する授業外学習時間と学生の学修行動分析
- ・GP分布分析（教育課程の科目群別、教員別）
- ・教員評価分析

□ 入学後の円滑な適応【早期退学者防止対策】の例

【週次レポートの構成】

- 累計欠席コマ数（必修、選択別）
- プレイメント調査結果
（国語、英語）
- 大学生基礎力テストからの抽出項目

【運用】

毎週、全学科すべての1年生の情報を学内ポータルサイトに掲載。アクセス権の範囲はそれぞれで設定

【PDCAのまわし方】

- | | |
|----------|--------------------|
| ①EM・IR部 | 欠席状況週次レポートの提案 |
| ②大学運営会議 | 全学的な了承 |
| ③EM・IR部 | 学科及び関係部局に週次レポートの発信 |
| ④学科 | 個別面談・個別指導に活用 |
| ⑤学生生活委員会 | 活用状況等の把握と討議 |
| | 大学運営会議へ報告 |

平成28年度1年生 必修／必修以外の累積欠席コマ数＜2016年6月20日時点＞※前回:2016年6月13日

学科・専攻	学籍番号	必修累積欠席コマ数		必修以外累積欠席コマ数		基礎学力テストレベル		大学での学びは、将来社会で活躍するために必要な力を高めてくれる	授業の内容と将来の目標との結びつきを理解している	大学で学ぶことによって、よりよい社会貢献ができると思う	大学で「これを深く学びたい」と思える学問がある	大学志望度	学部・学科
		今回	前回からの増加	今回	前回からの増加	英語	国語						
〇〇〇〇〇	16X032	25		5	+2	高1	高1	4.まったくあてはまらない	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	3.あまりあてはまらない	3.第三志望以下だった	2.第二志望だ
〇〇〇〇〇	16X005	19	+4	3	+1	高2		3.あまりあてはまらない	3.あまりあてはまらない	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	2.第二志望だった	2.第二志望だ
〇〇〇〇〇	16X008	9	+4	5	+2	高2	高3	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	3.あまりあてはまらない	1.非常にあてはまる	3.第三志望以下だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X048	7	+4	1	+1	高1	高1	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X014	7	+1	0		高2	高3	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	1.第一志望だった	3.第三志望以下
〇〇〇〇〇	16X046	7	+1	2	+1	中3	高2	1.非常にあてはまる	4.まったくあてはまらない	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X065	6		1	+1	高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X053	6	+1	3	+2	高2	高3	3.あまりあてはまらない	3.あまりあてはまらない	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X056	5		1	+1	高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	3.あまりあてはまらない	3.あまりあてはまらない	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X078	4		2	+2	中3	高1	3.あまりあてはまらない	1.非常にあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X028	4	+3	4		高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	3.あまりあてはまらない	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X045	3		0		高3	高3	4.まったくあてはまらない	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X016	3		1		高2	高1	1.非常にあてはまる	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	3.第三志望以下だった	2.第二志望だ
〇〇〇〇〇	16X019	3		1	+1	高3	高3	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X035	3	+3	0		高2	高1	1.非常にあてはまる	4.まったくあてはまらない	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ
〇〇〇〇〇	16X064	3	+2	1	+1	高2	高1	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.非常にあてはまる	2.ややあてはまる	1.第一志望だった	1.第一志望だ

※架空の値を使用

- ・ 必修科目の累積欠席コマ数（降順）
- ・ 前週からの増加数を併記

各学科・専攻の欠席状況＜平成28年度前期分＞報告

- ・ 1年生を対象に集計
- ・ 1行が学生1名に対応
- ・ 7月26日時点のデータを使用
- ・ 必修の累積欠席コマ数が多い順に掲載
(上位10%を緑色で表示)
- ・ 必修科目数は学科内において全学生で同じ
- ・ [必修／必修以外科目数]に対する
[累積欠席コマ数]の比率を表示
(値が大きいほど欠席がち)

□□□□□学科

必修科目数[A]
18

No.	必修累積欠席コマ数[B]	B÷A	必修以外累積欠席コマ数
1	52	2.9	23
2	44	2.4	4
3	34	1.9	12
4	22	1.2	9
5	21		12
6	20		9
7	16		6
8	16		7
9	11		8
10	9		6
11	8		8
12	7		3
13	7		6
14	6		2
15	6		7
16	5		6
17	4		4
18	3		10
19	3		1
20	3		3
21	3		6
22	2		1
23	2		3

□□□□□学科

必修科目数[A]
14

No.	必修累積欠席コマ数[B]	B÷A	必修以外累積欠席コマ数
1	42	3.0	25
2	16	1.1	16
3	11	0.8	2
4	10	0.7	3
5	9	0.6	7
6	8	0.6	5
7	7	0.5	4
8	6	0.4	2
9	6	0.4	6
10	6		4
11	5		1
12	5		4
13	5		1
14	5		0
15	5		4
16	4		3
17	4		4
18	4		3
19	4		3
20	4		2
21	4		1
22	4		1
23	4		1

□□□□□学科

必修科目数[A]
14

No.	必修累積欠席コマ数[B]	B÷A	必修以外累積欠席コマ数
1	37	2.6	16
2	26	1.9	4
3	21	1.5	11
4	15	1.1	8
5	14		0
6	13		7
7	11		9
8	11		4
9	11		1
10	10		5
11	9		4
12	7		3
13	7		6
14	7		0
15	6		3
16	5		2
17	5		2
18	5		7
19	5		2
20	4		5
21	4		2
22	4		0
23	3		1

※架空の値を使用

□ 授業改革（寄り添う教育・鍛える教育）の展開例

◆ カリキュラムポリシー（DPとの一体性の確保）

◆ カリキュラム

◆ カリキュラムマップ・フローチャート（DPと授業科目との関連性の明示など）

◆ シラバス

◆ 各授業科目

- ・教育内容 授業目標、授業計画・授業外学習の指示の明記など
- ・教育方法 授業方法の明示など
- ・成績評価 評価基準・評価方法の明示など

【適切性のチェックとその手段】 EM・IR部中心に企画・実施

- ・GP分布分析（学科別、科目区分別、専任・非常勤別など）
- ・学生授業評価（年2回 評価結果の分析、教員フィードバック義務付け）
 - 教員の想定する授業外学習と学生の実態
 - 学修成果関連質問項目と成績の相関
 - 成績と授業外学習時間の相関など
- ・授業公開（年1回 授業参観の義務付けと参観報告）
- ・教員評価「授業改善」項目分析
- ・指導及び成績評価ガイドラインの履行状況チェック
- ・全学FD研修会、学科FD（実施と総括、フィードバック）など

新カリキュラムマップの様式

配分

学習量(授業内外の学修活動の
総和)を100としたときの割合

*Koka's Heart**

〇〇〇〇学科カリキュラムマップ

〇〇〇〇学
科ディプロ
マポリシー

1. 知識・理解

- ①女性の多様な生き方・働き方と就
- ②社会、文化、人間に関する幅広い
- ③企業や公共組織の経営資源と、そ

2. 汎用的能力

- ④情報リテラシーを身につけ、日本語
- ⑤現代社会の諸問題について論理
- ⑥プロジェクト・マネジメントの技法を

3. 態度・志向性

- ⑦建学の精神「真実心」を理解し、他
- ⑧自己のキャリア形成の実現のため
- ⑨セルフマネジメント力(自己管理力

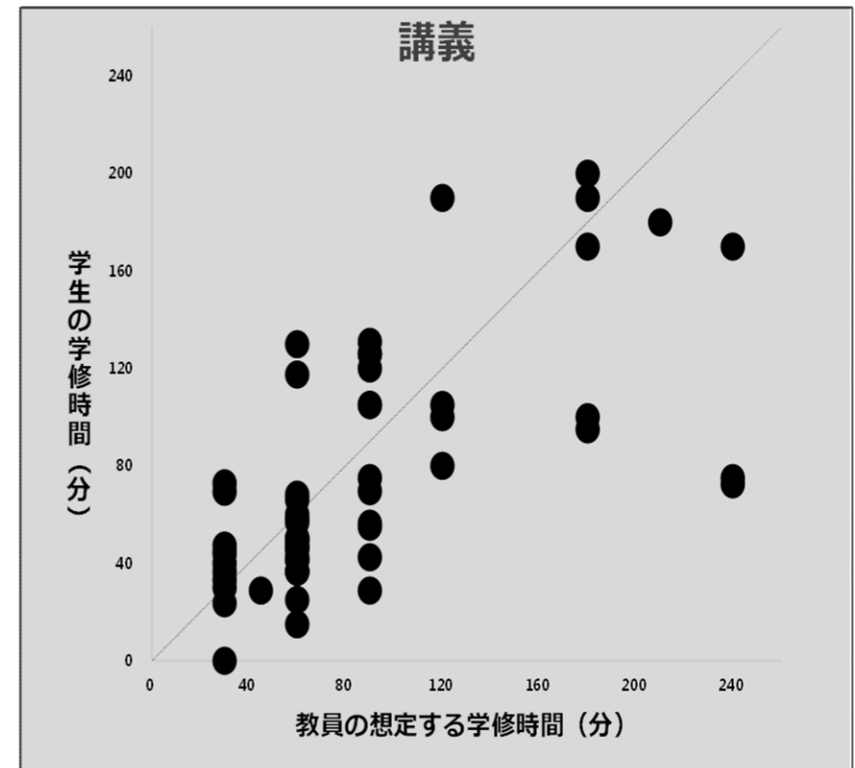
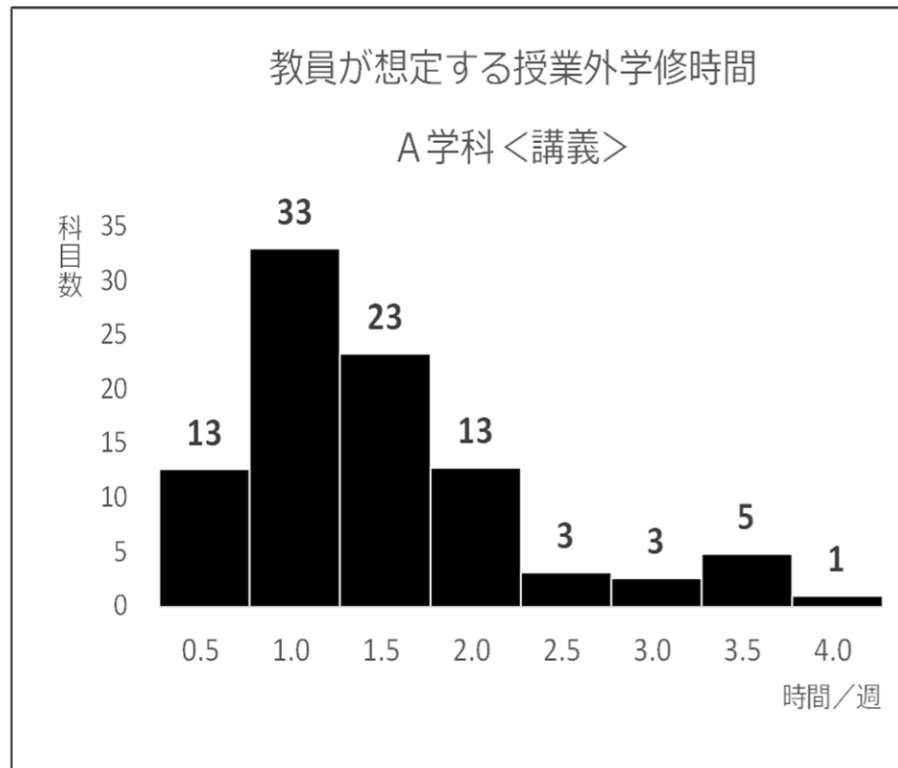
4. 統合的な学習経験と創造

- ⑩地域社会の課題を解決する

凡例◎: DP達成のため設定された項目と強い関連性がある

○: DP達成のため設定された項目と相当程度の関連性がある
1つの達成目標に対して合わせて最大2つ

科目担当教員が想定する授業外学習時間と学生の学修行動分析 (学位プログラム単位)



※架空の値を使用

⇒授業デザイン(授業内学習と授業外学習の計画)の改善に活用

*Koka's Heart**

総合的評価提示システムの概念図

ディプロマポリシー ライフデザイン学科

1. カリキュラムの多面的な履修を通して、豊かな人間形成をおこない、幅広く深い現代的教養を身につける
2. 体系的な学習を通して、現代の多様な課題を見つけ、問題を解決する判断力を身につける
3. 自らの人生の目標に向かって努力し、実践できる人材となる
4. 社会の変化に対応して、生涯を通して自らを高めることができる
5. 自らの立場を相対化し、広い視野から他者と協働できる
6. 学んだことや考察した結果を適切な手段によつて的確に表現することができる

カリキュラムマップ

学科目	科目の到達目標	ディプロマポリシーの項目番号*					
		凡例 ③: DP達成のために特に重要な目標 ②: DP達成のために重要な目標 ①: DP達成のために望ましい目標					
		①	②	③	④	⑤	⑥
ファッションディスプレイ 実習	1. ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる		△		○		
	2. ディスプレイマネキンに対して、ピンワークによる服飾デザインの応用立体表現ができる				○		③
	3. ディスプレイマネキンおよび人体に対して、ピンワークによる服飾デザインの創作立体表現ができる				○		③

教員による到達目標達成度評価

学生証 番号	到達目 標1	到達目 標2	到達目 標3
10L991	5	3	4
10L992	2	3	3
10L993	4	1	2

学生による到達目標達成度評価(達成感 ポートフォリオ)

ファッションディスプレイ実習

到達目標1

ディスプレイマネキンに対して、ピンワーク(ピンを用いて生地を巻き、あるいはとめつける技術)による服飾デザインの基礎立体表現ができる

達成度

100% ● 80% ● 60% ● 40% ● 20% ● 0% ●

自己評価の理由を200字程度で書いてください

到達目標2

総合的評価提示システムの一部

科目名		評価
科目名		評価
科目名		評価
ファッションディスプレイ演習		92
到達目標	評価	自己評価
1.基礎立体表現ができる	5	4
2.応用立体表現ができる	3	4
3.創作立体表現ができる	4	5

